

各位

スパークス・サーベイ ―世相をスパッと一刀両断―
夫婦のマネー事情と夫婦円満投資に関する調査 2024

夫婦の預貯金額は平均 968 万円、昨年調査から 215 万円の大幅増加
へそくり額の平均は夫 236 万円、妻 365 万円、夫では昨年調査から 84 万円の大幅増加
「妻の給料を把握していない」夫の 48%、「妻の娯楽費・交際費を把握していない」夫の 73%
「お金が原因で離婚危機を迎えたことがある」24%、お金が原因の夫婦喧嘩をしている夫婦では 55%
夫婦の“今年の家計”を表す漢字 1位「苦」2位「貯」3位「節」
「夫婦で一緒に考えて投資をしている」38%、昨年調査から 7 ポイント上昇
夫婦仲をお手本にしたい芸能人夫婦
1位「庄司智春さん・藤本美貴さん」2位「杉浦太陽さん・辻希美さん」

スパークス・アセット・マネジメント株式会社 (<https://www.sparx.co.jp/>) (東京都港区。代表取締役社長 阿部修平) は、夫婦の金銭事情や投資に対する意識を明らかにするため、2024年10月9日～10月10日の2日間、全国の20歳以上の既婚(配偶者がいる)男女を対象に、「夫婦のマネー事情と夫婦円満投資に関する調査2024」をインターネットリサーチにより実施し、1,000名の有効サンプルを集計しました。なお本レポートは、サンプル調査という性質上、実態を全て反映したものではありません。また、特定の投資商品や個別銘柄の取引を勧誘する目的で作成したものではありません。(調査協力会社: ネットエイジア株式会社)

▼ 夫婦のマネー事情 ……p.3-14

- 夫婦の貯金管理の主導権は? 「妻が主導」48%、「夫が主導」23%
- 夫婦の預貯金額は平均968万円、昨年調査から215万円の大幅増加
- おこづかい額の決定権 「妻のほうが強い」36%、「夫のほうが強い」23%
- おこづかい額の平均は36,087円/月、昨年調査から5,256円増加
- 「自身のおこづかい金額を見直している」50%、「配偶者のおこづかい金額を見直している」41%
- 「毎月のおこづかい額に満足している」46%、60代以上女性では56%
- 「へそくりをしている」夫の47%、妻の50%
- へそくり額の平均は夫236万円、妻365万円、夫では昨年調査から84万円の大幅増加
- 「家計を見直している」66%、20代では74%
- 夫婦の現在の家計状況の自己採点 平均は59点
- 「老後資金の準備状況を見直している」54%
- 夫婦の現在の老後資金準備状況の自己採点 平均は47点、老後資金の準備方法の見直しを行っている人では54点
- 「夫婦の老後に備えるためのお金を毎月確保できている」78%、昨年調査から5ポイント上昇
- 夫婦の老後に備えるために確保できている金額 平均99,272円/月、昨年調査から36,765円の大幅増加
- 「妻の給料を把握していない」夫の48%、「妻の娯楽費・交際費を把握していない」夫の73%
- 「お金関連で配偶者に不満を持っている」51%、家計状況の自己評価が平均点未満の人では65%
- お金関連の配偶者への不満 1位「節約しない」2位「無駄遣いが多い」3位「収入が少ない」



- 「お金が原因で年1回以上夫婦喧嘩をしている」37%、お金が原因の夫婦喧嘩の回数は平均2.0回/年
- 「お金が原因で離婚危機を迎えたことがある」24%、お金が原因の夫婦喧嘩をしている夫婦では55%

▼ 社会情勢・経済政策と夫婦のマナー事情 ……………p.15-20

- 夫婦の“今年の家計”を表す漢字 1位「苦」2位「貯」3位「節」
- 新首相に期待する経済政策 「物価の高騰を何とかしてほしい」「最低賃金のアップ」など
- “新しいNISA”の認知率は76%、40代男性では90%
- 「夫婦で一緒に考えて行う投資に新しいNISAを利用している」新しいNISAを知っていた人の31%
- 「今後も、夫婦で一緒に考えて行う投資に新しいNISAを利用したい」
夫婦で一緒に考えて行う投資に新しいNISAを利用している人の95%
- 「定額減税で消費意欲が高まった」定額減税対象者の23%
- 「定額減税の効果で夫婦旅の頻度が増えた」定額減税対象者の16%、20代では24%
- 「定額減税は夫婦円満度の向上に効果があった」定額減税対象者の24%、20代では34%
- 「定額減税はデフレ脱却に効果的な経済政策だと思う」定額減税対象者の31%

▼ 夫婦の投資事情 ……………p.21-22

- 「夫婦で一緒に考えて投資をしている」38%、昨年調査から7ポイント上昇
- 「配偶者に内緒で投資をしている」24%
- 夫婦で一緒に考えて投資をしている資産 1位「日本株式」2位「投資信託」
- 配偶者に内緒で投資をしている資産 1位「日本株式」2位「投資信託」

▼ 夫婦関係と夫婦円満投資 ……………p.23-26

- 「夫婦の役割分担を見直している」49%、20代では59%
- 夫婦円満度の自己採点 平均は67点、夫婦の役割分担を見直している人では71点
- 夫婦円満であるために行っていることTOP3 「多少のことは我慢する」「話を聞く」「家事をする」、
20代男性では「記念日を祝う」、50代男性では「話を聞く」、
30代女性では「感謝の気持ちを言葉で伝える」、60代以上女性では「互いの健康を気遣う」が1位に
- 夫婦円満であるために配偶者に行ってほしいこと 1位は「感謝の気持ちを言葉で伝える」、
60代以上男性では「多少のことは我慢する」、40代女性では「話を聞く」と「お金を稼ぐ」が1位に
- 夫婦仲をお手本にしたい芸能人夫婦
1位「庄司智春さん・藤本美貴さん」2位「杉浦太陽さん・辻希美さん」
- 夫婦仲をお手本にしたいアニメキャラ夫婦 1位「フグ田マスオ・フグ田サザエ」2位「野原ひろし・野原みさえ」

◆◆ 報道関係の皆様へ ◆◆

本ニュースレターの内容の転載にあたりましては、
「スパークス・アセット・マネジメント調べ」と付記のうえ、ご使用いただきますようお願い申し上げます。

▼夫婦のマネー事情

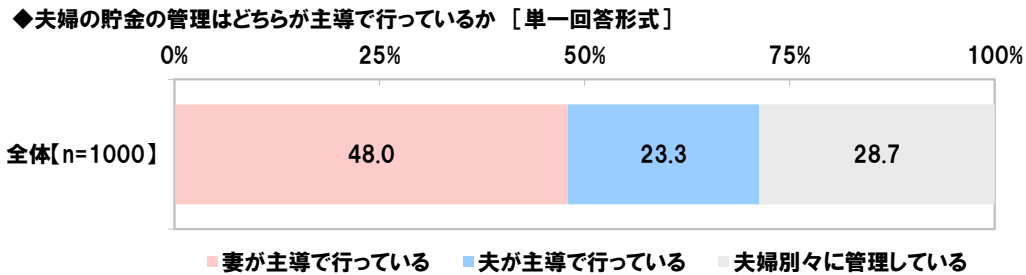
◆夫婦の貯金管理の主導権は？「妻が主導」48%、「夫が主導」23%

◆夫婦の預貯金額は平均 968 万円、昨年調査から 215 万円の大幅増加

全国の 20 歳以上の既婚(配偶者がいる)男女 1,000 名(全回答者)に、夫婦のマネー事情について質問しました。

はじめに、全回答者(1,000 名)に、夫婦の貯金の管理はどちらが主導で行っているか聞いたところ、「妻が主導で行っている」は 48.0%、「夫が主導で行っている」は 23.3%、「夫婦別々に管理している」は 28.7%となりました。【図 1】

【図 1】

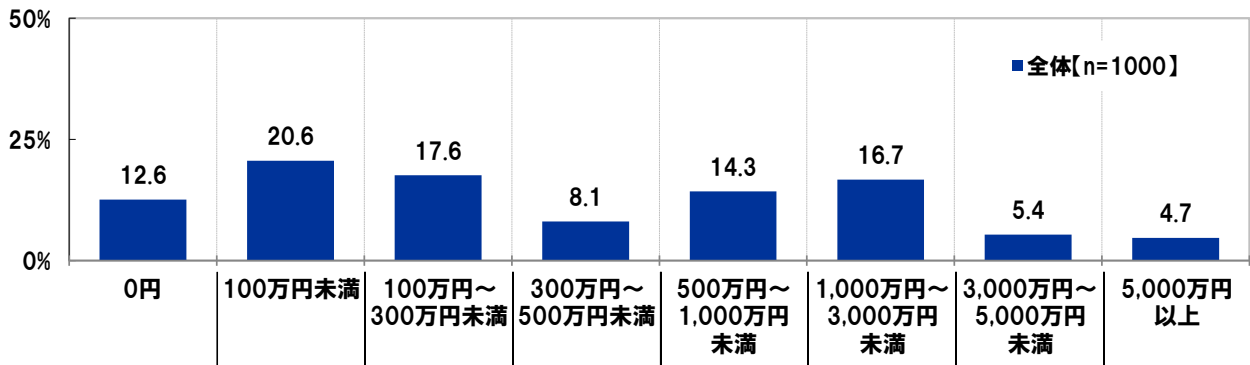


夫婦の預貯金の残高を聞いたところ、「100 万円未満」(20.6%)や「100 万円～300 万円未満」(17.6%)、「500 万円～1,000 万円未満」(14.3%)、「1,000 万円～3,000 万円未満」(16.7%)などに回答が分かれ、平均は 968 万円でした。

昨年の調査結果と比較すると、夫婦の預貯金の残高の平均は 2023 年 753 万円→2024 年 968 万円と、215 万円増加しました。年代別にみると、60 代以上では 524 万円増加(2023 年 1,521 万円→2024 年 2,045 万円)と、他の年代と比べて増加幅が大きくなりました。【図 2】【図 3】

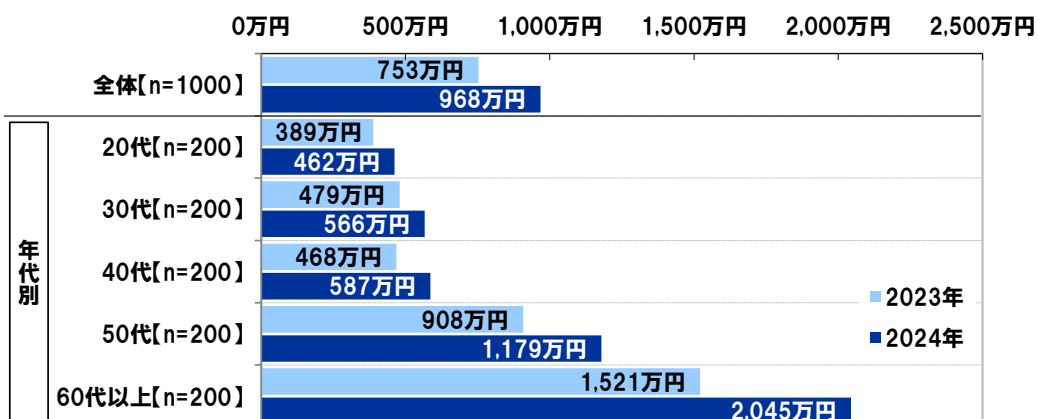
【図 2】

◆夫婦の預貯金の残高 [自由回答形式:数値]



【図 3】

◆夫婦の預貯金の残高の平均



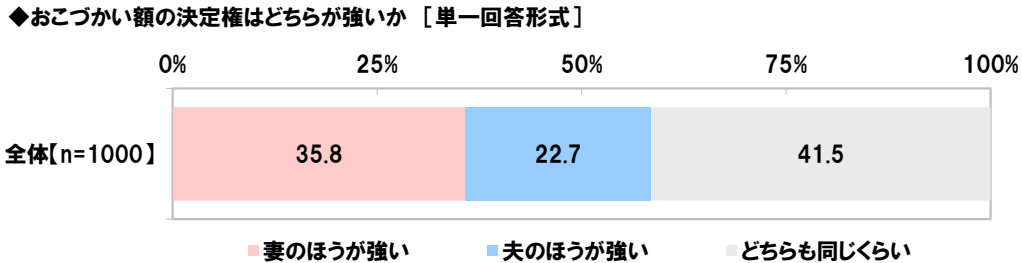


◆おこづかい額の決定権 「妻のほうが強い」36%、「夫のほうが強い」23%

◆おこづかい額の平均は 36,087 円/月、昨年調査から 5,256 円増加

全回答者(1,000名)に、おこづかい額の決定権はどちらが強いと聞いたところ、「妻のほうが強い」は 35.8%、「夫のほうが強い」は 22.7%、「どちらも同じくらい」は 41.5%となりました。【図 4】

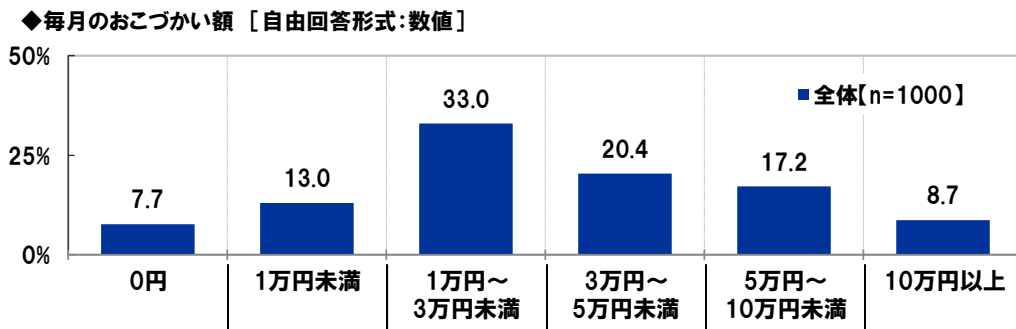
[図 4]



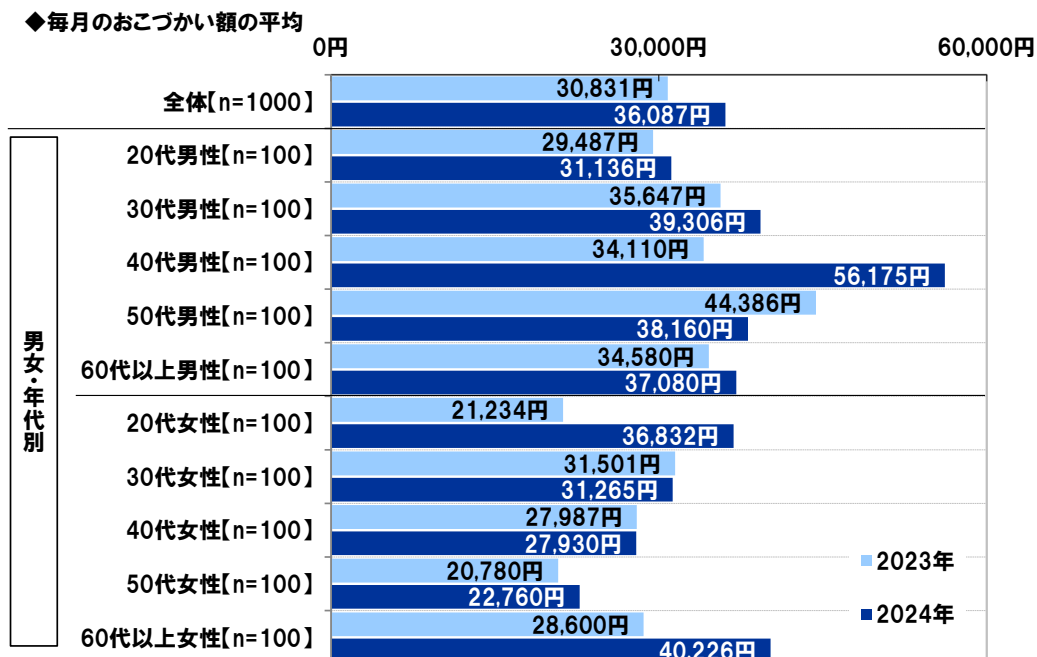
毎月のおこづかい額(=ひと月に自由に使えるお金)はどのくらいか聞いたところ、「1万円～3万円未満」(33.0%)に多くの回答が集まり、平均は 36,087 円となりました。

昨年の調査結果と比較すると、毎月のおこづかい額の平均は、2023年 30,831円→2024年 36,087円と、5,256円増加しました。男女・年代別にみると、毎月のおこづかい額の平均は、40代男性では 22,065円増加(2023年 34,110円→2024年 56,175円)、20代女性では 15,598円増加(2023年 21,234円→2024年 36,832円)、60代以上女性では 11,626円増加(2023年 28,600円→2024年 40,226円)と、それぞれ 10,000円以上の大幅増加となりました。【図 5】【図 6】

[図 5]



[図 6]

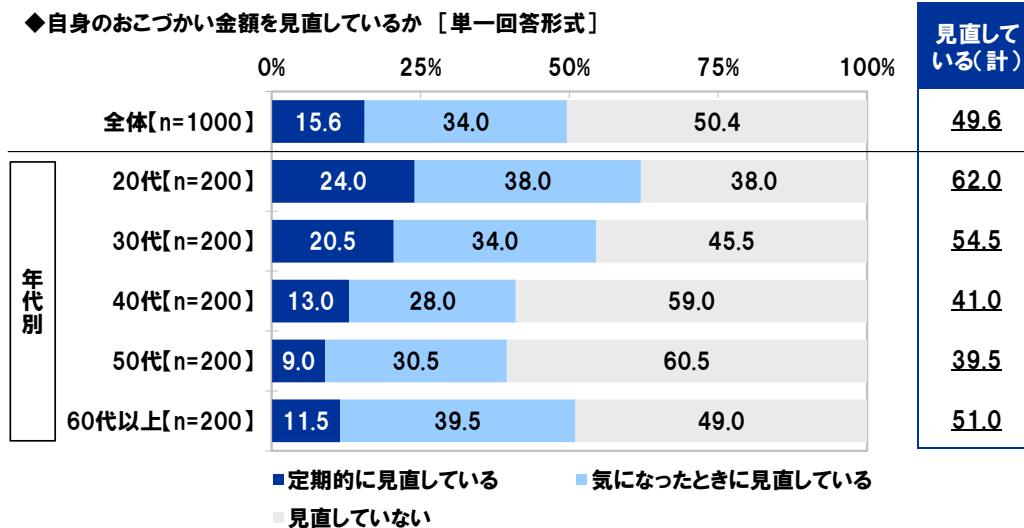


◆「自身のおこづかい金額を見直している」50%、「配偶者のおこづかい金額を見直している」41%

全回答者(1,000名)に、自身のおこづかい金額を見直しているか聞いたところ、「定期的に見直している」は15.6%、「気になったときに見直している」は34.0%で、合計した『見直している(計)』は49.6%、「見直していない」は50.4%となりました。

年代別にみると、自身のおこづかい金額を見直している人の割合は、20代(62.0%)が最も高くなりました。【図7】

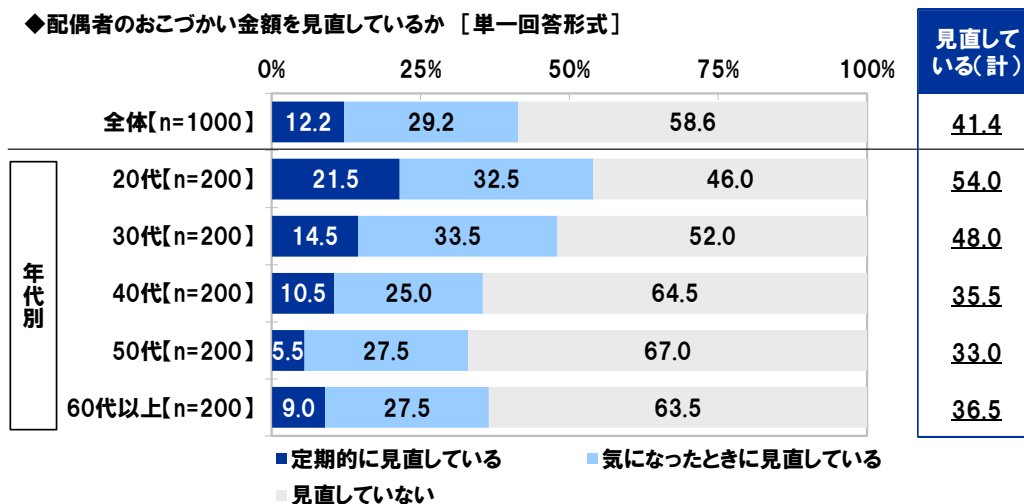
[図7]



また、配偶者のおこづかい金額を見直しているか聞いたところ、「定期的に見直している」は12.2%、「気になったときに見直している」は29.2%で、合計した『見直している(計)』は41.4%、「見直していない」は58.6%となりました。

年代別にみると、配偶者のおこづかい金額を見直している人の割合は、20代(54.0%)と30代(48.0%)で高くなりました。【図8】

[図8]

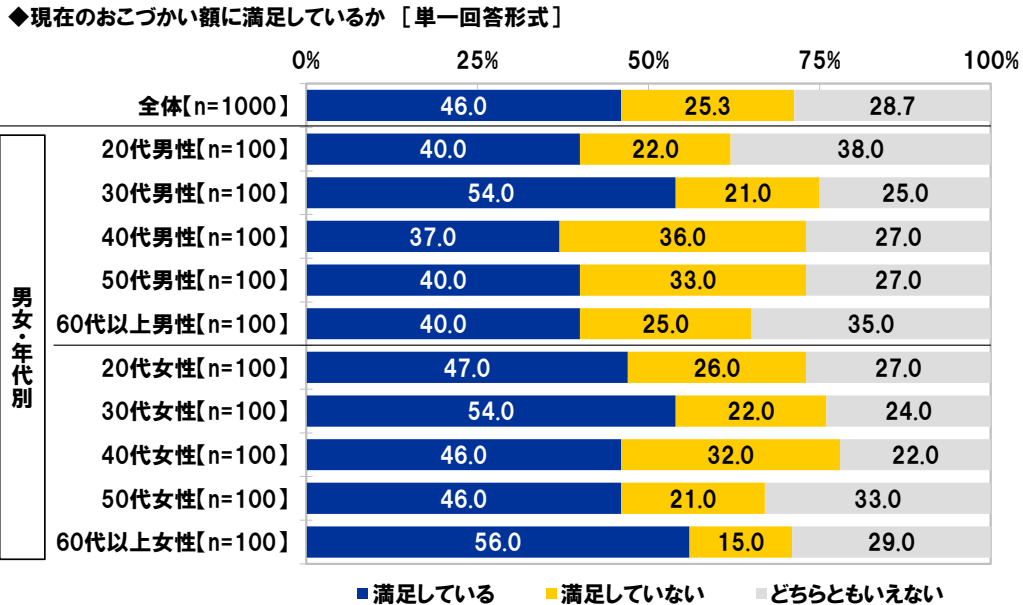


◆「毎月のおこづかい額に満足している」46%、60代以上女性では56%

全回答者(1,000名)に、現在のおこづかい額に満足しているか聞いたところ、「満足している」は46.0%、「満足していない」は25.3%、「どちらともいえない」は28.7%となりました。

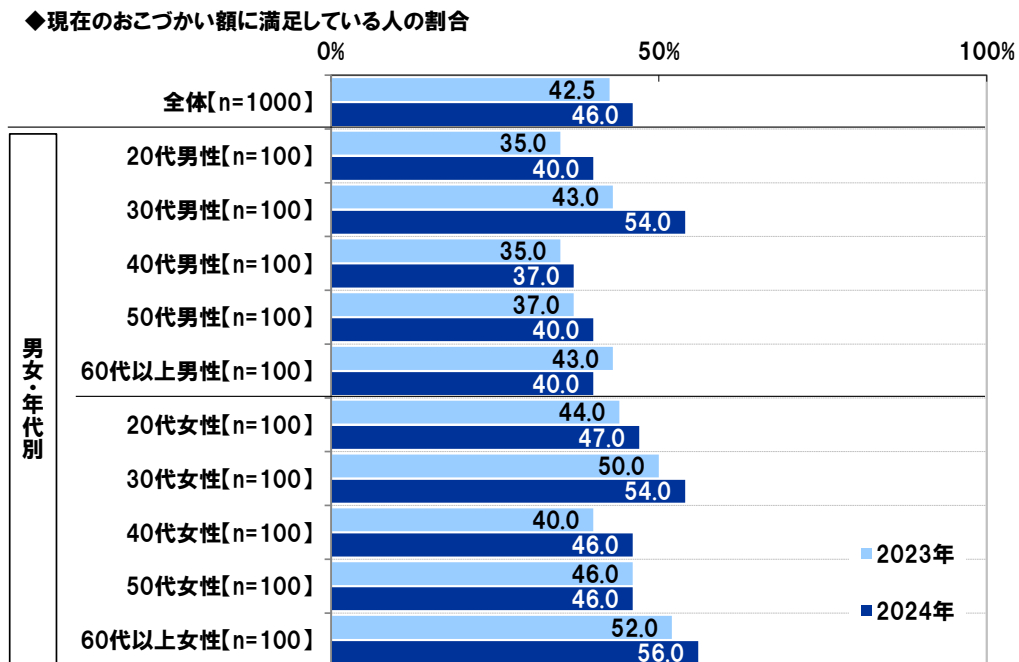
男女・年代別にみると、現在のおこづかい額に満足している人の割合は、60代以上女性(56.0%)が最も高くなり、30代男性と30代女性(いずれも54.0%)が続きました。[図9]

[図9]



昨年の調査結果と比較すると、現在のおこづかい額に満足している人の割合は、30代男性では11.0ポイント上昇(2023年43.0%→2024年54.0%)と、上昇幅が大きくなりました。[図10]

[図10]



◆「へそくりをしている」夫の 47%、妻の 50%

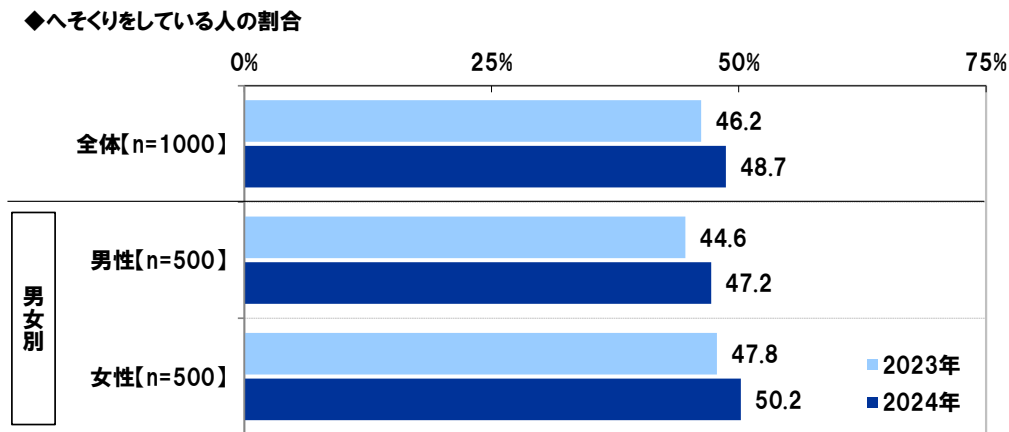
◆へそくり額の平均は夫 236 万円、妻 365 万円、夫では昨年調査から 84 万円の大増

パートナーに内緒でお金を蓄えている人は、どのくらいいるのでしょうか。

全回答者(1,000 名)に、パートナー(夫・妻)に隠して蓄えているお金(へそくり)について聞いたところ、へそくりをしている人の割合は全体で 48.7%となりました。男女別にみると、男性 47.2%、女性 50.2%と、男性と比べて女性のほうが 3.0 ポイント高くなりました。

昨年の調査結果と比較すると、へそくりをしている人の割合は、2023 年 46.2%→2024 年 48.7%と 2.5 ポイント上昇しました。【図 11】

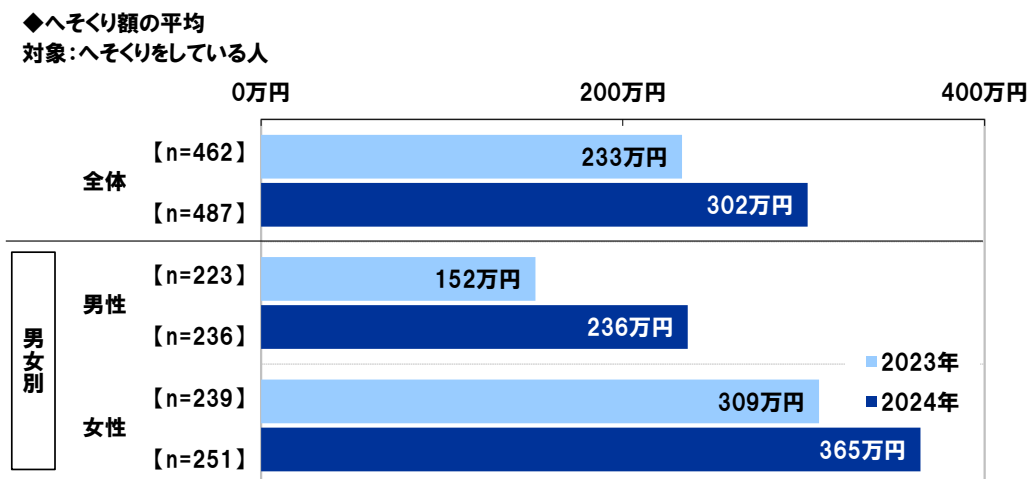
[図 11]



へそくりをしている人(487 名)に、へそくり額を聞いたところ、平均は全体では 302 万円となり、男女別にみると、男性 236 万円、女性 365 万円でした。

昨年の調査結果と比較すると、へそくり額の平均は、全体では 2023 年 233 万円→2024 年 302 万円と、69 万円増加しました。男女別にみると、男性では 84 万円の増加(2023 年 152 万円→2024 年 236 万円)、女性では 56 万円の増加(2023 年 309 万円→2024 年 365 万円)となりました。【図 12】

[図 12]



◆「家計を見直している」66%、20代では74%

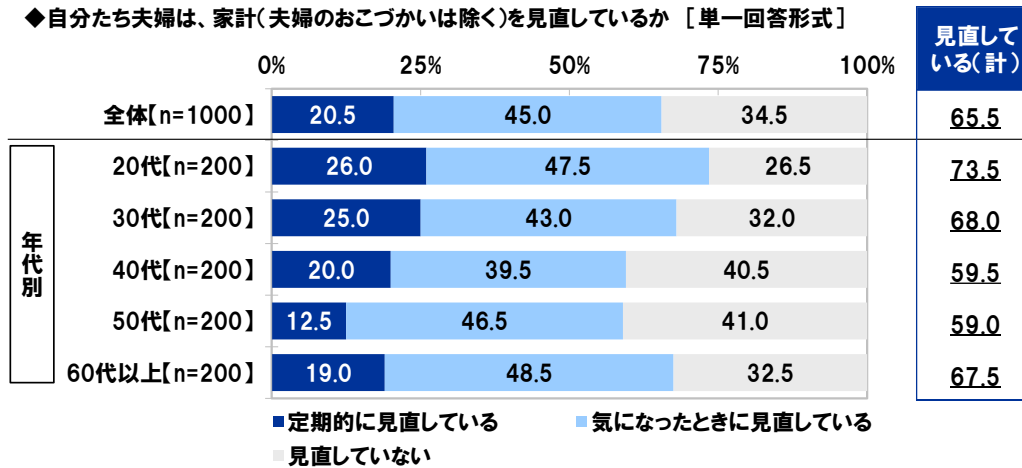
◆夫婦の現在の家計状況の自己採点 平均は59点

夫婦の現在の家計について質問しました。

全回答者(1,000名)に、自分たち夫婦は、家計(夫婦のおこづかいは除く)を見直しているか聞いたところ、「定期的に見直している」は20.5%、「気になったときに見直している」は45.0%で、合計した『見直している(計)』は65.5%と、見直している人が多数となりました。また、「見直していない」は34.5%でした。

年代別にみると、家計を見直している人の割合は、20代(73.5%)では7割を超えました。【図13】

[図13]

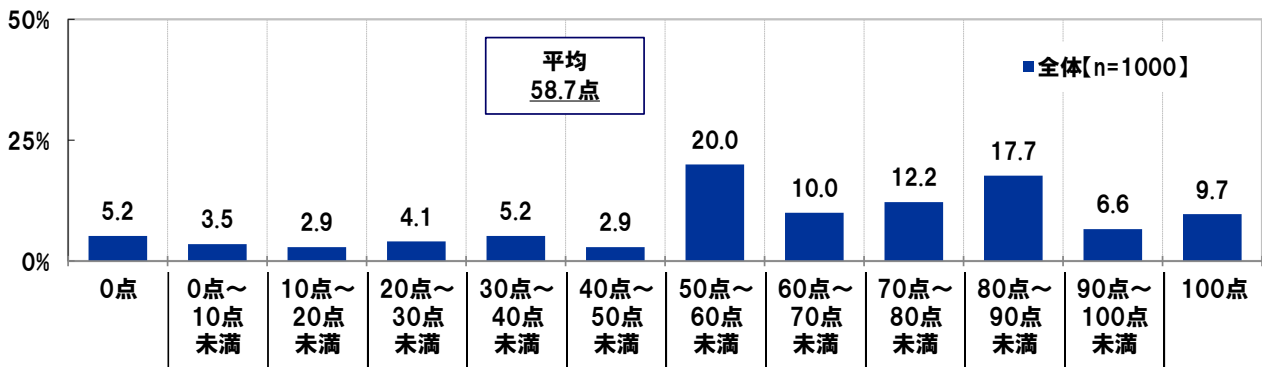


自分たち夫婦の現在の家計状況を、100点満点で自己採点すると何点になるか聞いたところ、「50点～60点未満」(20.0%)や「80点～90点未満」(17.7%)に回答が集まり、平均は58.7点でした。

家計の見直し状況別にみると、自己採点の平均は、家計を見直している人では61.1点と、見直していない人(54.2点)と比べて6.9点高くなりました。家計をしっかりとチェックして、収支バランスの改善に取り組むことで、家計状況を良好に保っている人が多いのではないのでしょうか。【図14】【図15】

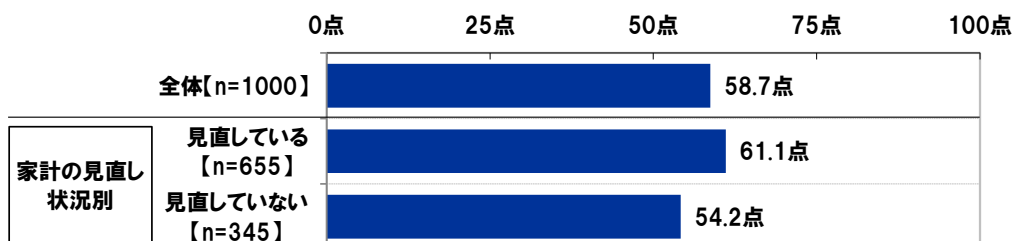
[図14]

◆自分たち夫婦の現在の家計状況を、100点満点で自己採点すると何点になるか [自由回答形式:数値]



[図15]

◆自分たち夫婦の現在の家計状況の自己採点(平均点)



◆「老後資金の準備状況を見直している」54%
 ◆夫婦の現在の老後資金準備状況の自己採点 平均は 47 点、
老後資金の準備方法の見直しを行っている人では 54 点

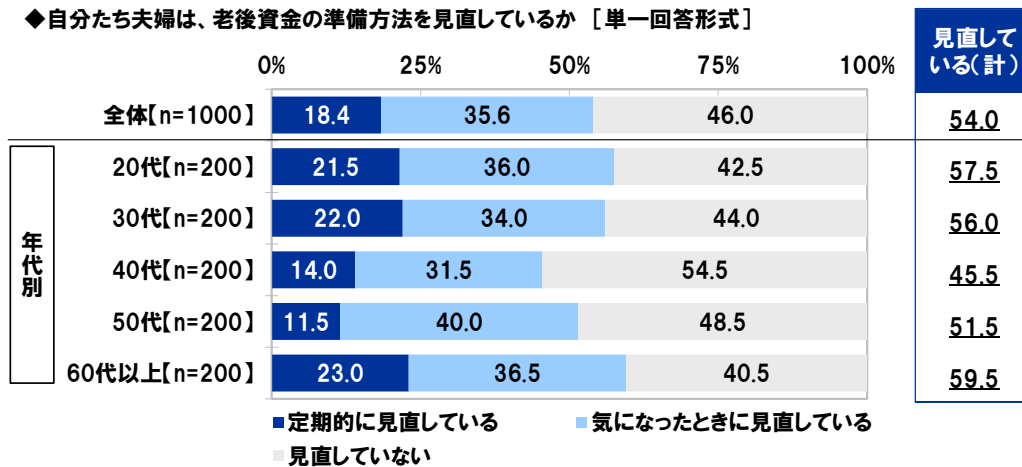
夫婦の老後資金の準備について質問しました。

全回答者(1,000名)に、自分たち夫婦は、老後資金の準備方法を見直しているか聞いたところ、「定期的に見直している」は 18.4%、「気になったときに見直している」は 35.6%で、合計した『見直している(計)』は 54.0%、「見直していない」は 46.0%となりました。

年代別にみると、老後資金の準備方法を見直している人の割合は、60代以上(59.5%)が最も高くなりました。

[図 16]

[図 16]

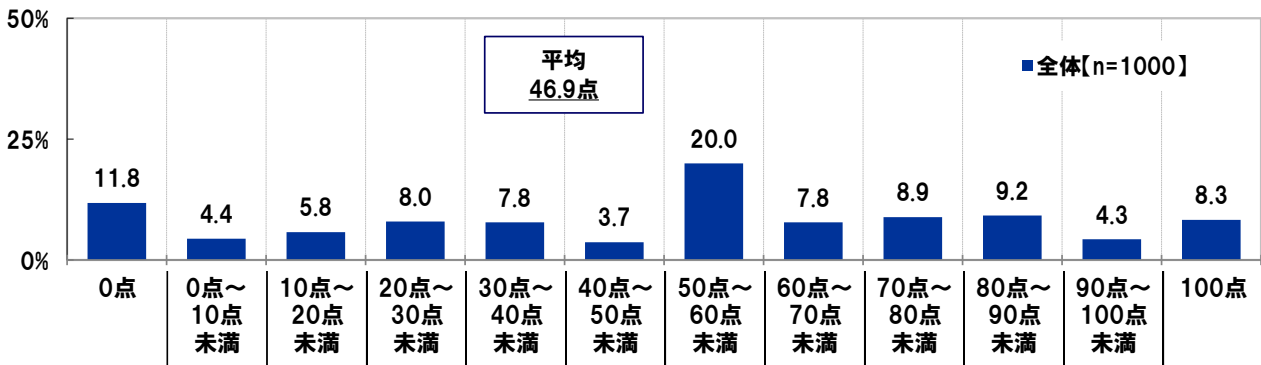


自分たち夫婦の現在の老後資金準備状況を、100点満点で自己採点すると何点になるか聞いたところ、「50点～60点未満」(20.0%)に回答が集まり、平均は 46.9 点となりました。

老後資金の準備方法の見直し状況別にみると、現在の老後資金準備状況の自己採点の平均は、老後資金の準備方法を見直している人では 53.5 点と、見直していない人(39.2 点)と比べて 14.3 点高くなりました。 [図 17][図 18]

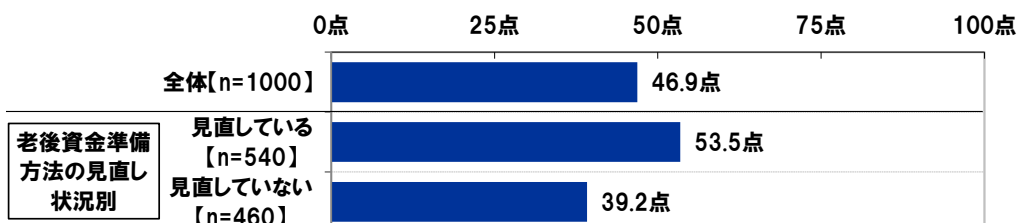
[図 17]

◆自分たち夫婦の現在の老後資金準備状況を、100点満点で自己採点すると何点になるか [自由回答形式:数値]



[図 18]

◆自分たち夫婦の現在の老後資金準備状況の自己採点(平均点)



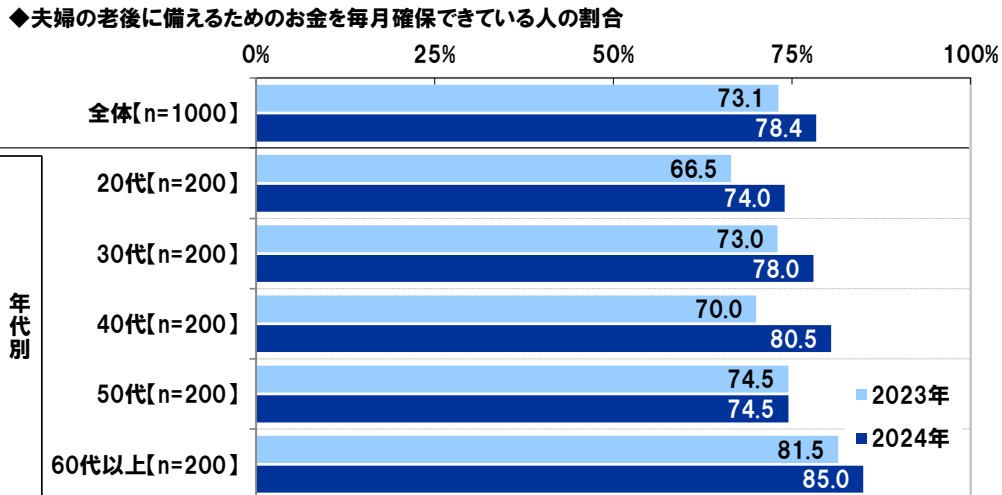
◆「夫婦の老後に備えるためのお金を毎月確保できている」78%、昨年調査から5ポイント上昇
 ◆夫婦の老後に備えるために確保できている金額 平均 99,272 円/月、昨年調査から 36,765 円の大幅増加

全回答者(1,000名)に、夫婦の老後に備えるためのお金を毎月確保できているか聞いたところ、確保できている人の割合は78.4%となりました。老後資金の準備を継続的に行っている人が多いようです。

昨年の調査結果と比較すると、毎月確保できている人の割合は、2023年73.1%→2024年78.4%と、5.3ポイント上昇しました。

年代別にみると、毎月確保できている人の割合は、40代では10.5ポイント上昇(2023年70.0%→2024年80.5%)と、上昇幅が大きくなりました。[図19]

[図19]

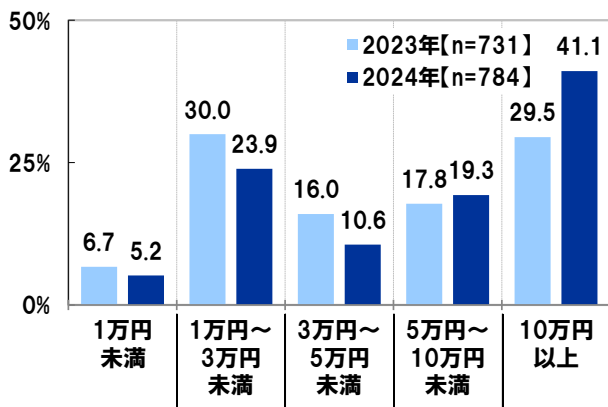


夫婦の老後に備えるためのお金を毎月確保できている人(784名)に、夫婦の老後の備えとしてひと月あたりにいくらくらい確保できているか聞いたところ、「10万円以上」(41.1%)に回答が集まり、平均は99,272円でした。

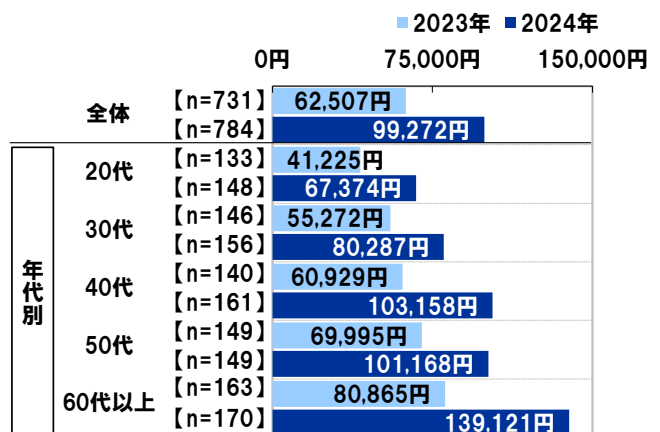
昨年の調査結果と比較すると、「10万円以上」は11.6ポイント上昇(2023年29.5%→2024年41.1%)しました。また、ひと月あたりに確保できている金額の平均は36,765円の大幅増加(2023年62,507円→2024年99,272円)となり、年代別にみると、60代以上では58,256円の増加(2023年80,865円→2024年139,121円)と、増加幅が大きくなりました。[図20]

[図20]

◆夫婦の老後の備えとしてひと月あたりに確保できている金額
 [自由回答形式:数値]
 対象:夫婦の老後に備えるためのお金を毎月確保できている人



◆夫婦の老後の備えとしてひと月あたりに確保できている金額の平均
 対象:夫婦の老後に備えるためのお金を毎月確保できている人



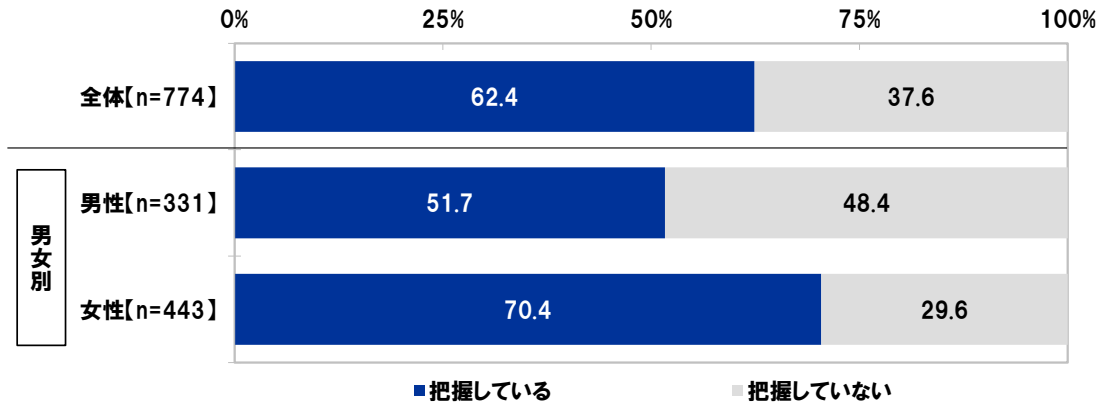
◆「妻の給料を把握していない」夫の48%、「妻の娯楽費・交際費を把握していない」夫の73%

配偶者が働いている人(774名)に、配偶者の給料を把握しているか聞いたところ、「把握している」は62.4%、「把握していない」は37.6%となりました。

男女別にみると、「把握していない」は男性では48.4%と、女性(29.6%)と比べて18.8ポイント高くなり、妻の給料を知らない夫が約半数を占める実態が明らかになりました。【図21】

[図21]

◆配偶者の給料を把握しているか [単一回答形式]
対象:配偶者が働いている人

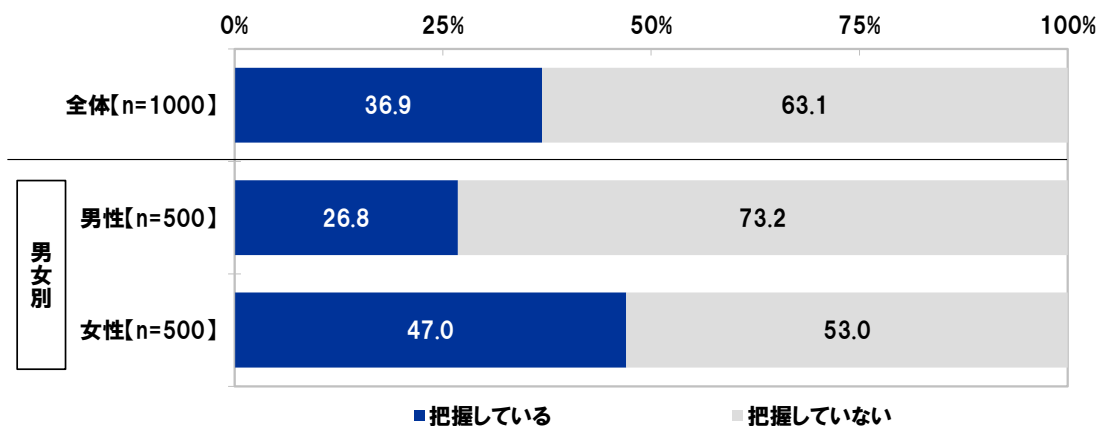


全回答者(1,000名)に、配偶者の娯楽費・交際費を把握しているか聞いたところ、「把握している」は36.9%、「把握していない」は63.1%となりました。

男女別にみると、「把握していない」は男性では73.2%と、女性(53.0%)と比べて20.2ポイント高くなりました。夫の大半が、妻の楽しみや人付き合いのための支出について把握していないことがわかりました。【図22】

[図22]

◆配偶者の娯楽費・交際費を把握しているか [単一回答形式]

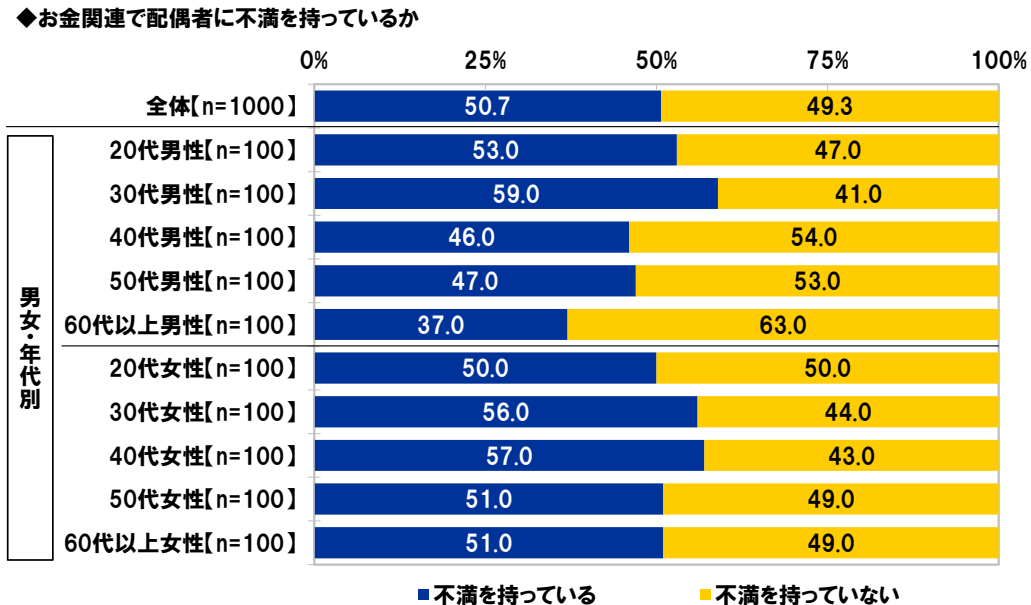


◆「お金関連で配偶者に不満を持っている」51%、家計状況の自己評価が平均点未満の人では 65%

全回答者(1,000名)に、お金関連で配偶者に不満を持っているか聞いたところ、「不満を持っている」は 50.7%、「不満を持っていない」は 49.3%でした。

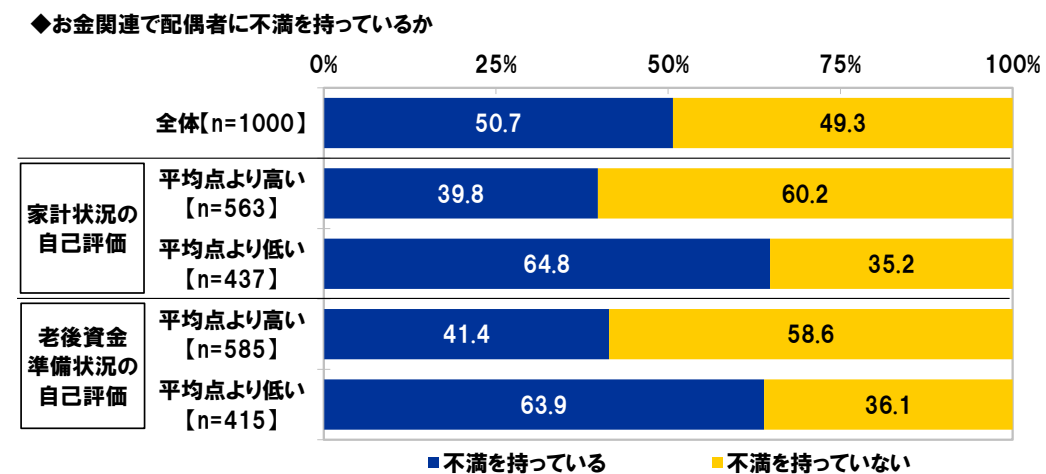
男女・年代別にみると、「不満を持っている」と回答した人の割合は、20代(男性 53.0%、女性 50.0%)、30代(男性 59.0%、女性 56.0%)では男性のほうが高くなり、40代(男性 46.0%、女性 57.0%)、50代(男性 47.0%、女性 51.0%)、60代以上(男性 37.0%、女性 51.0%)では女性のほうが高くなりました。【図 23】

[図 23]



家計状況と老後資金準備状況の自己評価別にみると、「不満を持っている」と回答した人の割合は、家計状況の自己評価が平均点より低い人では 64.8%となり、老後資金の準備状況の自己評価が平均点より低い人では 63.9%となりました。家計のやりくりや老後資金の準備がうまくいっていないことが原因で、配偶者に対する不満が募ってしまうケースがあるのではないのでしょうか。【図 24】

[図 24]



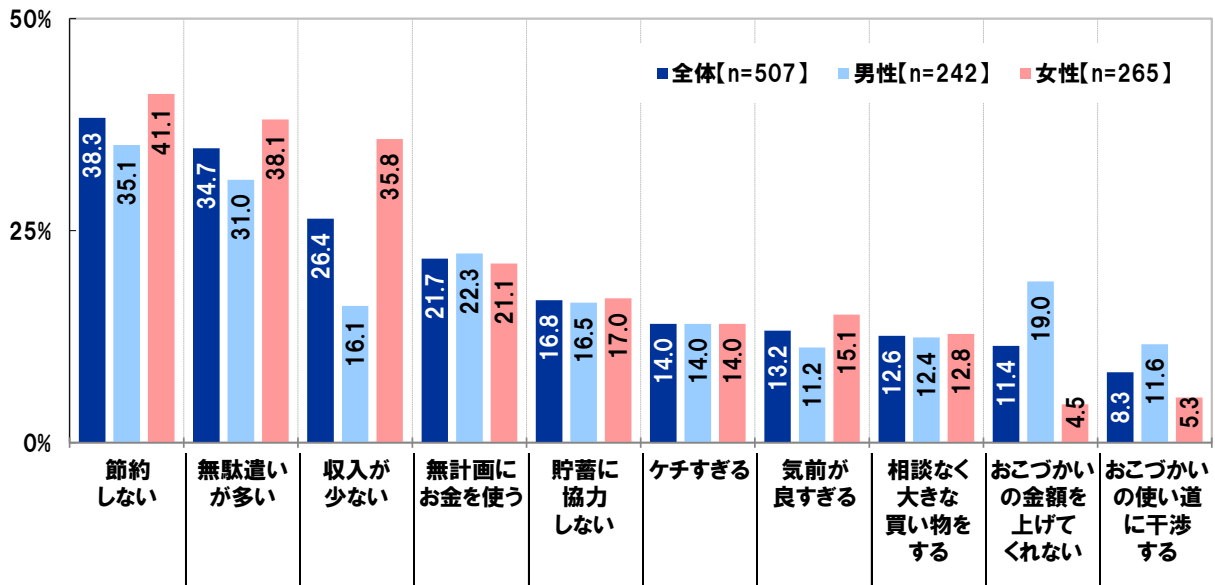
◆お金関連の配偶者への不満 1位「節約しない」2位「無駄遣いが多い」3位「収入が少ない」

お金関連で配偶者に不満を持っている人(507名)に、お金関連で配偶者にどのような不満を持っているか聞いたところ、「節約しない」(38.3%)と「無駄遣いが多い」(34.7%)が特に高くなりました。お金の使い方に対する考え方の違いが、パートナーへの不満につながっているという人が多いのではないのでしょうか。次いで高くなったのは、「収入が少ない」(26.4%)、「無計画にお金を使う」(21.7%)、「貯蓄に協力しない」(16.8%)でした。

男女別にみると、「収入が少ない」(男性16.1%、女性35.8%)は、男性と比べて女性のほうが19.7ポイント高くなり、「おこづかいの金額を上げてくれない」(男性19.0%、女性4.5%)は、女性と比べて男性のほうが14.5ポイント高くなりました。[図25]

[図25]

◆お金関連で配偶者にどのような不満を持っているか [複数回答形式] ※全体の上位10位までを抜粋
対象: お金関連で配偶者に不満を持っている人

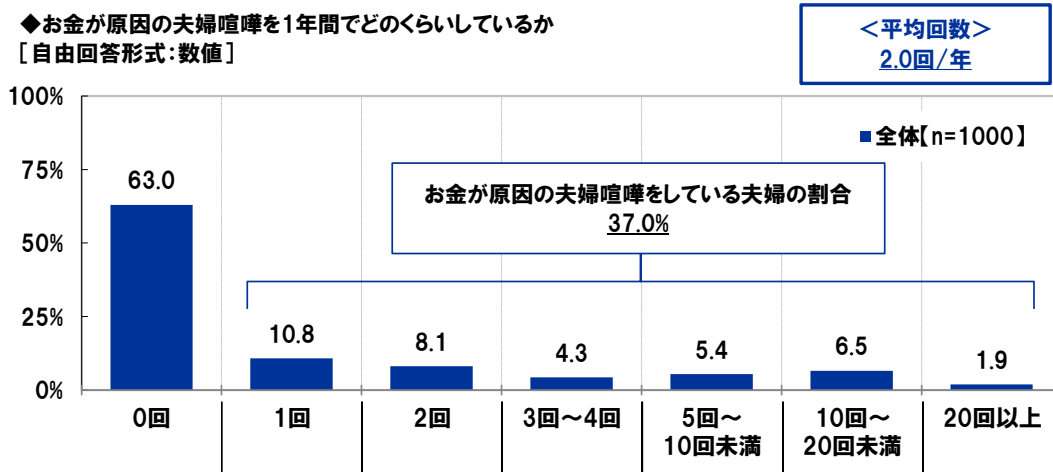


- ◆「お金が原因で年1回以上夫婦喧嘩をしている」37%、お金が原因の夫婦喧嘩の回数は平均2.0回/年
- ◆「お金が原因で離婚危機を迎えたことがある」24%、お金が原因の夫婦喧嘩をしている夫婦では55%

お金の問題が、夫婦喧嘩や離婚危機につながることはあるのでしょうか。

全回答者(1,000名)に、お金が原因の夫婦喧嘩を1年間でどのくらいしているか聞いたところ、「0回」が63.0%、『お金が原因の夫婦喧嘩をしている夫婦の割合』(1回以上と回答した人の割合)は37.0%となりました。お金が原因の夫婦喧嘩の回数は平均2.0回/年でした。【図26】

【図26】

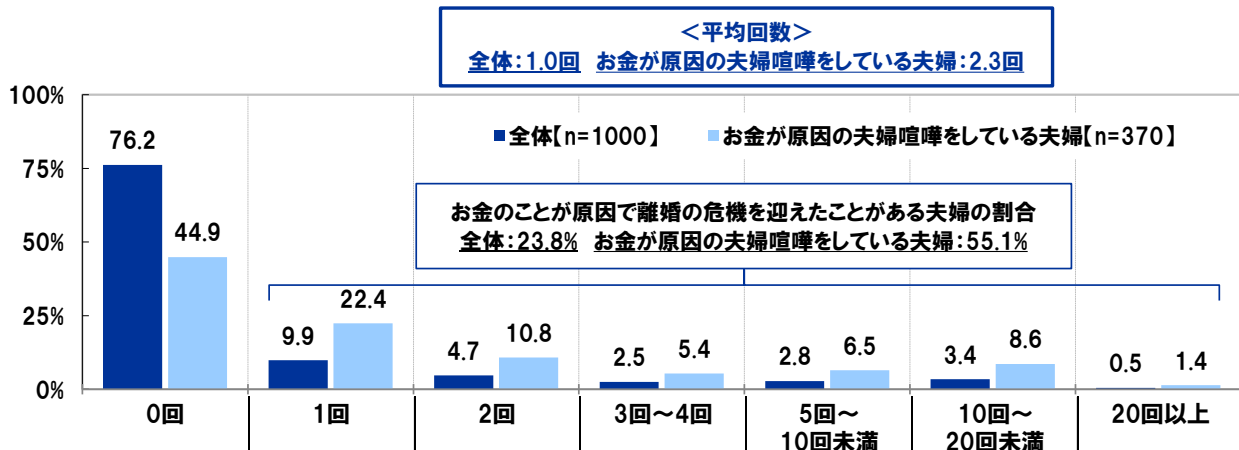


また、お金のことが原因で離婚の危機をこれまでに何回くらい迎えたか聞いたところ、「0回」は76.2%、『お金のことが原因で離婚の危機を迎えたことがある夫婦の割合』(1回以上と回答した人の割合)は23.8%となりました。お金のことが原因で離婚の危機を迎えた回数は平均1.0回/年でした。

お金が原因の夫婦喧嘩をしている夫婦(370組)についてみると、『お金のことが原因で離婚の危機を迎えたことがある夫婦の割合』は55.1%となりました。お金に関する喧嘩がエスカレートすると、夫婦関係に深刻な亀裂が入るリスクがあるのではないのでしょうか。【図27】

【図27】

◆お金のことが原因で離婚の危機をこれまでに何回くらい迎えたか [自由回答形式:数値]



▼ 社会情勢・経済政策と夫婦のマネー事情

◆ 夫婦の“今年の家計”を表す漢字 1位「苦」2位「貯」3位「節」

全回答者(1,000名)に、夫婦の“今年の家計”を表す漢字(1字)を聞いたところ、1位「苦」(63名)、2位「貯」(47名)、3位「節」(34名)、4位「金」(33名)、5位「厳」(31名)と続きました。

それぞれの回答について理由を聞いたところ、1位の「苦」については「物価高で家計がとても苦しいから(50代女性)」、「値上がりばかりで苦勞するから(40代男性)」など、物価高騰による家計の苦境を反映した回答が多く挙げられました。2位の「貯」については「これから貯えを増やしていきたいから(30代男性)」、「貯金をしていくべきだと思ったから(20代女性)」、3位の「節」については「節約に力を入れていたから(30代女性)」、「常に節約を念頭に行動したいから(60代以上男性)」といった回答が挙げられました。【図28】

昨年の調査結果と比較すると、「厳」は2023年7位→2024年5位、「楽」は2023年10位→2024年6位とそれぞれ順位が上昇しました。【図29】

[図28]

◆ 夫婦の「今年の家計」を表す漢字(1字) [自由回答形式] ※上位10位までを抜粋

全体[n=1000]

順位	回答	名
1位	苦	63
2位	貯	47
3位	節	34
4位	金	33
5位	厳	31
6位	楽	28
	減	28
	貧	28
9位	忍	27
10位	普	26

[図29]

◀2023年調査▶

◆ 夫婦の「今年の家計」を表す漢字(1字) [自由回答形式] ※上位10位までを抜粋

全体[n=1000]

順位	回答	名
1位	苦	83
2位	貯	37
3位	節	35
4位	金	34
5位	減	32
6位	耐	30
7位	厳	25
8位	増	23
	忍	23
10位	楽 / 平 / 無	22



◆新首相に期待する経済政策 「物価の高騰を何とかしてほしい」「最低賃金のアップ」など

2024年9月の自民党総裁選挙により、石破茂氏が第102代内閣総理大臣に就任しました。新しい首相にどのような経済政策を推進してほしいと思う人が多いのでしょうか。

全回答者(1,000名)に、新首相に期待する経済政策を聞いたところ、税金関連では「消費税率を下げる(60代以上女性)」や「増税だけはやめてほしい(20代女性)」、物価関連では「物価の高騰を何とかしてほしい(60代以上女性)」や「電気代・ガソリン代の値下げ(60代以上男性)」、子育て・医療関連では「大学まで授業料無償化(40代男性)」や「医療費削減(50代女性)」、賃金関連では「最低賃金のアップ(60代以上男性)」や「若者の賃金を上げてほしい(20代女性)」、年金・高齢化関連では「年金の見直し(40代男性)」や「高齢化社会に対する対策(50代女性)」といった回答が挙げられました。[図30]

[図30]

◆新首相に期待する経済政策 [自由回答形式]

※回答を抜粋して表示

全体[n=1000]

<p>【税金】 消費税率を下げる(60代以上女性) 増税だけはやめてほしい(20代女性) 税金の無駄遣いを見直す(30代男性)</p>	<p>【物価】 物価の高騰を何とかしてほしい(60代以上女性) 電気代・ガソリン代の値下げ(60代以上男性) 物価上昇に応じた所得増加(60代以上女性)</p>
<p>【子育て・医療】 大学まで授業料無償化(40代男性) 子どもの医療費無償化(20代女性) 児童手当の増額(40代男性) 医療費削減(50代女性)</p>	<p>【賃金】 最低賃金のアップ(60代以上男性) 手取りを増やしてほしい(40代女性) 若者の賃金を上げてほしい(20代女性)</p>
<p>【年金・高齢化】 年金増額(60代以上男性) 年金の見直し(40代男性) 高齢化社会に対する対策(50代女性)</p>	<p>【その他】 経済の活性化(60代以上男性) 株価対策(20代男性) 景気回復(40代男性) 給付金の継続(60代以上男性)</p>



◆“新しいNISA”の認知率は76%、40代男性では90%

◆「夫婦で一緒に考えて行う投資に新しいNISAを利用している」新しいNISAを知っていた人の31%

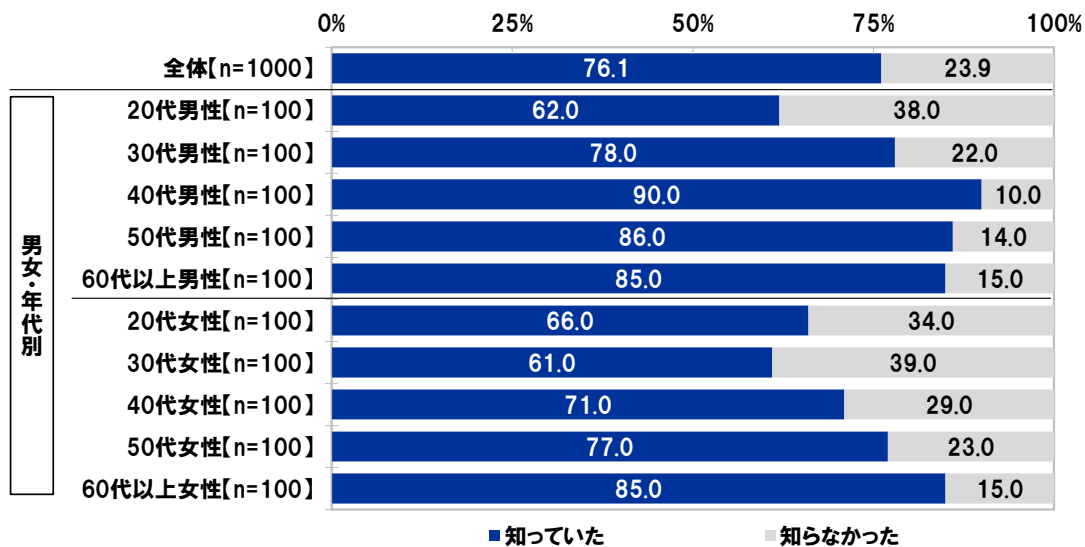
2024年から“新しいNISA”がスタートしました。新しいNISAでは、非課税保有期間の無期限化、口座開設期間の恒久化、年間投資枠の拡大、つみたて投資枠と成長投資枠の併用可能化、生涯非課税限度額の設定といった制度改正が行われました。

全回答者(1,000名)に、新しいNISAがスタートしていることを知っていたか聞いたところ、「知っていた」は76.1%、「知らなかった」は23.9%となりました。

男女・年代別にみると、「知っていた」と回答した人の割合は、男性では40代(90.0%)が最も高く、9割に達しました。女性では60代以上(85.0%)が最も高くなりました。【図31】

[図31]

◆新しいNISAがスタートしていることを知っていたか [単一回答形式]



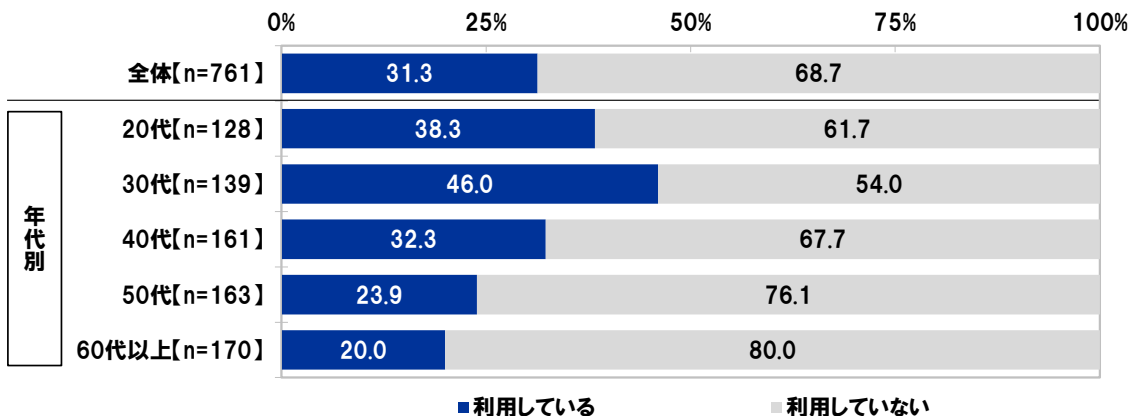
新しいNISAがスタートしていることを知っていた人(761名)に、夫婦で一緒に考えて行う投資に新しいNISAを利用しているか聞いたところ、「利用している」は31.3%、「利用していない」は68.7%となりました。

年代別にみると、「利用している」と回答した人の割合は、30代(46.0%)が最も高くなりました。【図32】

[図32]

◆夫婦で一緒に考えて行う投資に新しいNISAを利用しているか [単一回答形式]

対象:新しいNISAがスタートしていることを知っていた人





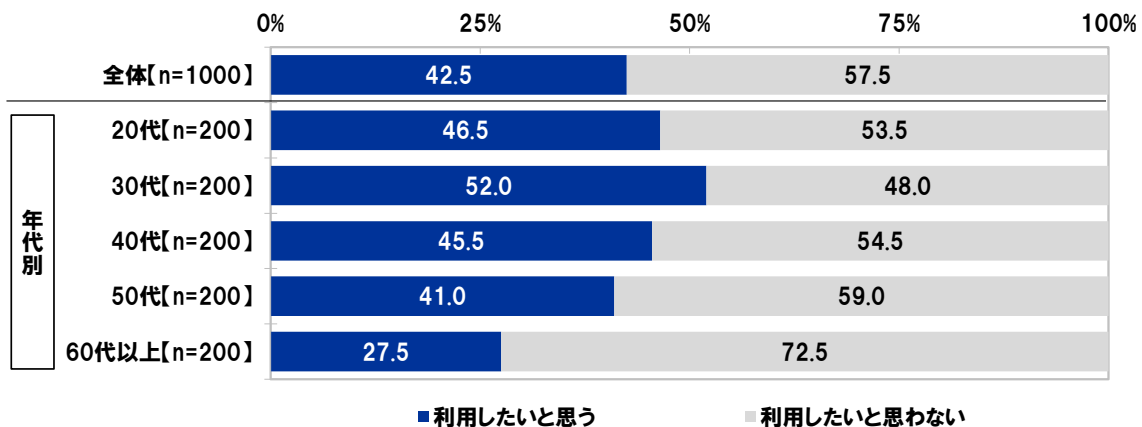
◆「今後も、夫婦で一緒に考えて行う投資に新しいNISAを利用したい」
 夫婦で一緒に考えて行う投資に新しいNISAを利用している人の95%

全回答者(1,000名)に、今後(今後も)、夫婦で一緒に考えて行う投資に新しいNISAを利用したいと思うか聞いたところ、「利用したいと思う」は42.5%、「利用したいと思わない」は57.5%となりました。

年代別にみると、「利用したいと思う」と回答した人の割合は、30代(52.0%)では半数以上となりました。 [図 33]

[図 33]

◆今後(今後も)、夫婦で一緒に考えて行う投資に新しいNISAを利用したいと思うか [単一回答形式]



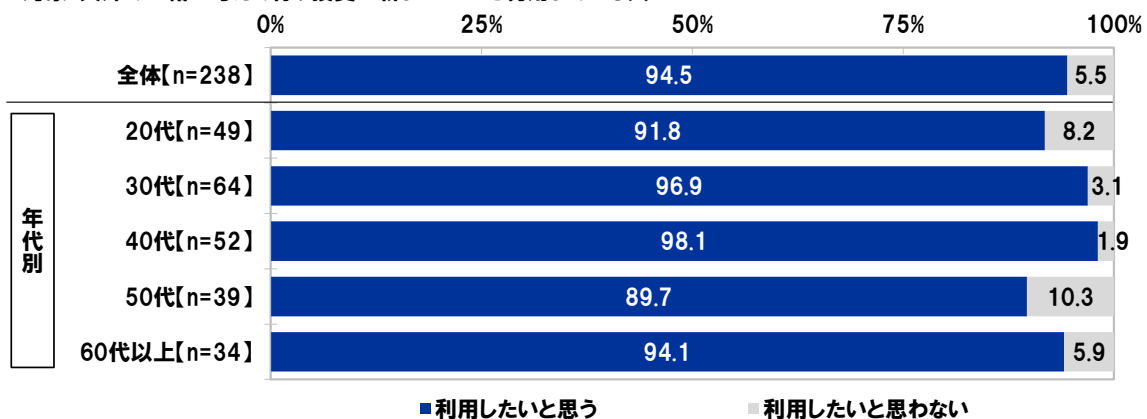
夫婦で一緒に考えて行う投資に新しいNISAを利用している人(238名)に、今後も、夫婦で一緒に考えて行う投資に新しいNISAを利用したいと思うか聞いたところ、「利用したいと思う」は94.5%、「利用したいと思わない」は5.5%と、大多数の人が、引き続き新しいNISAを利用して、夫婦で投資に取り組みたいと考えていることがわかりました。

年代別にみると、「利用したいと思う」と回答した人の割合は、40代(98.1%)が最も高くなりました。 [図 34]

[図 34]

◆今後も、夫婦で一緒に考えて行う投資に新しいNISAを利用したいと思うか [単一回答形式]

対象：夫婦で一緒に考えて行う投資に新しいNISAを利用している人



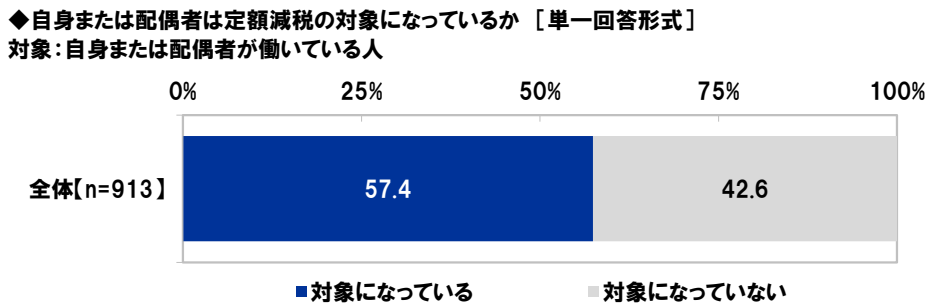


- ◆「定額減税で消費意欲が高まった」定額減税対象者の 23%
- ◆「定額減税の効果で夫婦旅の頻度が増えた」定額減税対象者の 16%、20 代では 24%
- ◆「定額減税は夫婦円満度の向上に効果があった」定額減税対象者の 24%、20 代では 34%
- ◆「定額減税はデフレ脱却に効果的な経済政策だと思う」定額減税対象者の 31%

2024 年の 6 月から 1 年間、定額減税が実施されています。定額減税では、納税者及び扶養親族 1 人につき、2024 年分の所得税から 3 万円、2024 年度分の個人住民税所得割から 1 万円が減税されます。合計所得金額が 1,805 万円超の人は対象外となっています。この定額減税について質問しました。

自身または配偶者が働いている人(913 名)に、自身または配偶者は定額減税の対象になっているか聞いたところ、「対象になっている」は 57.4%、「対象になっていない」は 42.6%でした。 [図 35]

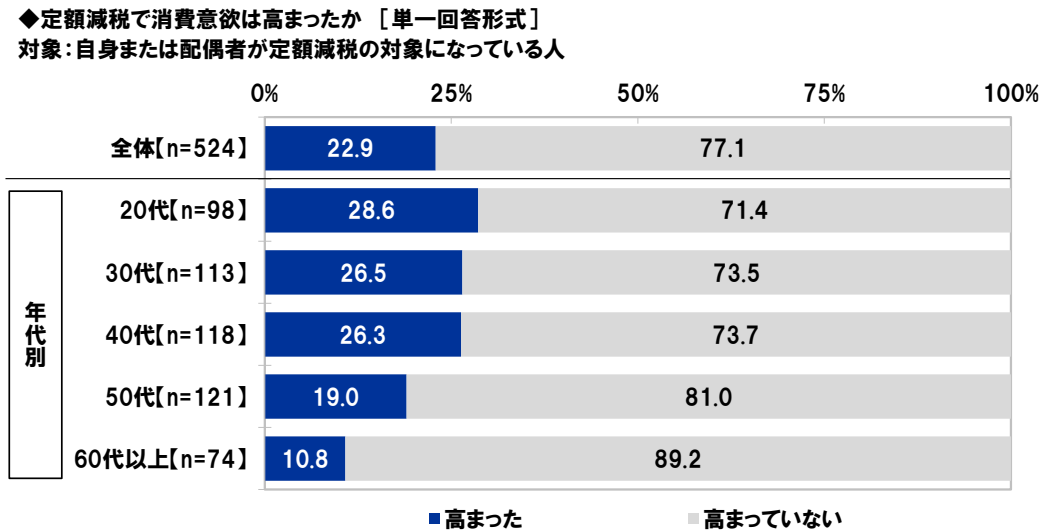
[図 35]



自身または配偶者が定額減税の対象になっている人(524 名)に、定額減税で消費意欲は高まったか聞いたところ、「高まった」は 22.9%、「高まっていない」は 77.1%となりました。

年代別に見ると、「高まった」と回答した人の割合は、若い年代ほど高い傾向がみられ、20 代では 28.6%となりました。 [図 36]

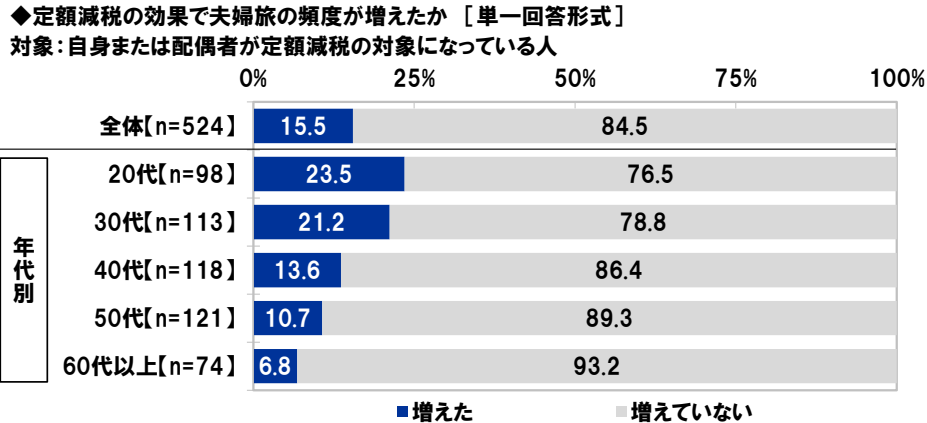
[図 36]



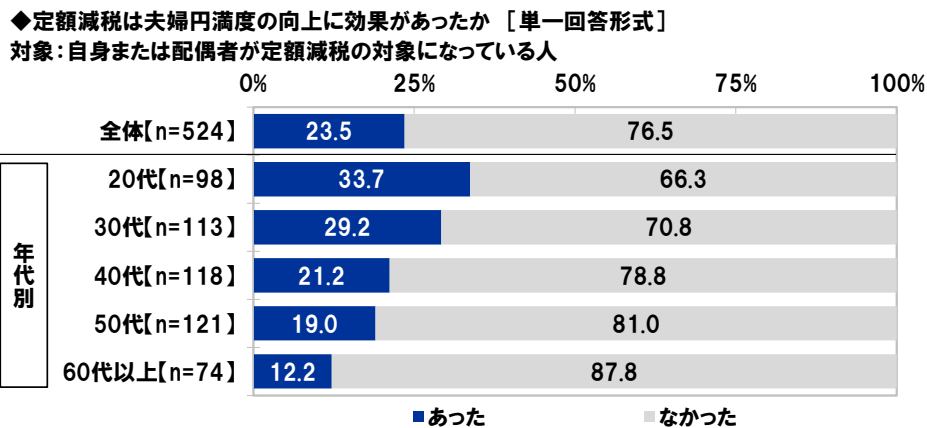
定額減税の効果で夫婦旅の頻度が増えたか聞いたところ、「増えた」は 15.5%、定額減税は夫婦円満度の向上に効果があったか聞いたところ、「あった」は 23.5%でした。

年代別にみると、定額減税の効果で夫婦旅の頻度が増えたと回答した人の割合と、定額減税は夫婦円満度の向上に効果があったと回答した人の割合は、いずれも若い年代ほど高い傾向がみられ、20代では順に 23.5%、33.7%となりました。若年層の夫婦では、定額減税の効果で夫婦一緒に旅行する機会が増えたり、夫婦仲が良くなったりと、プラスの影響がみられたケースが少なくないようです。【図 37】【図 38】

【図 37】



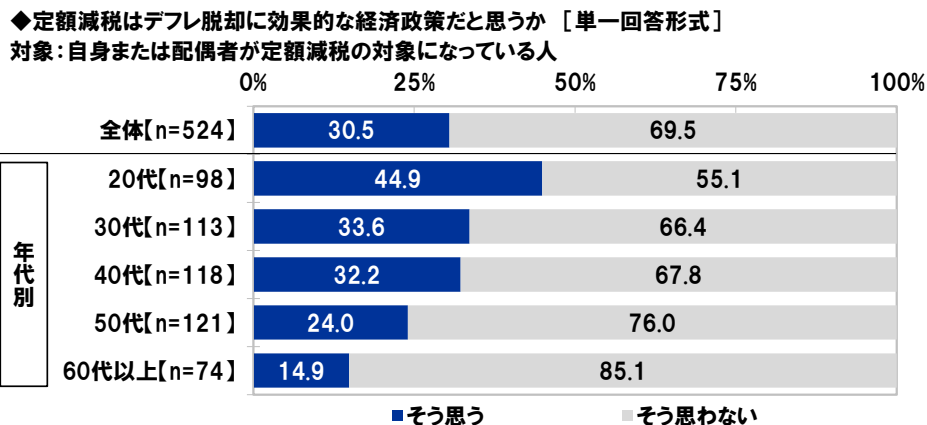
【図 38】



定額減税はデフレ脱却に効果的な経済政策だと思うか聞いたところ、「そう思う」は 30.5%、「そう思わない」は 69.5%となりました。

年代別にみると、「そう思う」と回答した人の割合は、若い年代ほど高くなりました。若年層には、賃金上昇が物価高に追いつかず大きな負担となっている状況が、定額減税によって緩和されると期待する人が多いようです。【図 39】

【図 39】



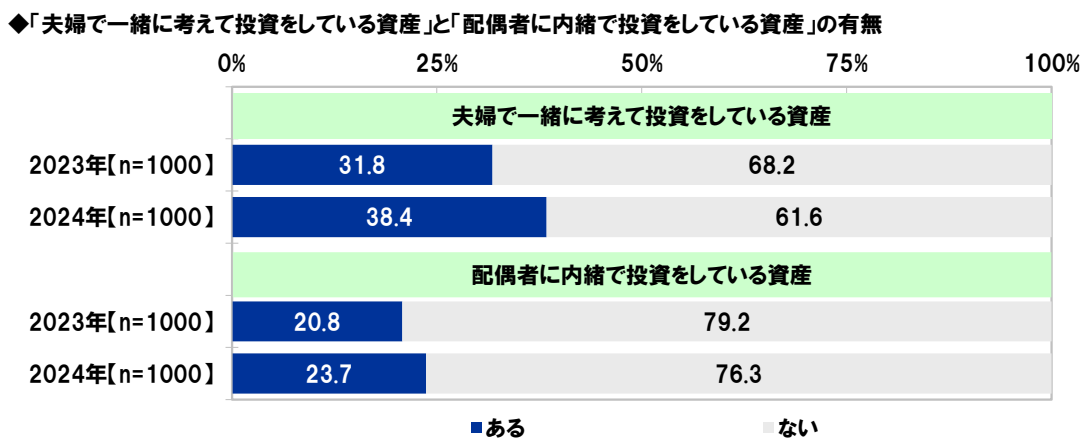
▼夫婦の投資事情

- ◆「夫婦で一緒に考えて投資をしている」38%、昨年調査から7ポイント上昇
- ◆「配偶者に内緒で投資をしている」24%
- ◆夫婦で一緒に考えて投資をしている資産 1位「日本株式」2位「投資信託」
- ◆配偶者に内緒で投資をしている資産 1位「日本株式」2位「投資信託」

全回答者(1,000名)に、“夫婦で一緒に考えて投資をしている資産”と“配偶者に内緒で投資をしている資産”の有無を聞いたところ、“夫婦で一緒に考えて投資をしている資産”がある人の割合は38.4%、“配偶者に内緒で投資をしている資産”がある人の割合は23.7%となりました。

昨年の調査結果と比較すると、“夫婦で一緒に考えて投資をしている資産”がある人の割合は、2023年31.8%→2024年38.4%と6.6ポイント上昇しました。新しいNISAのスタートなどが後押しとなってか、夫婦で相談しながら投資に取り組む人が増えているようです。また、“配偶者に内緒で投資をしている資産”がある人の割合は、2023年20.8%→2024年23.7%と2.9ポイント上昇しました。【図40】

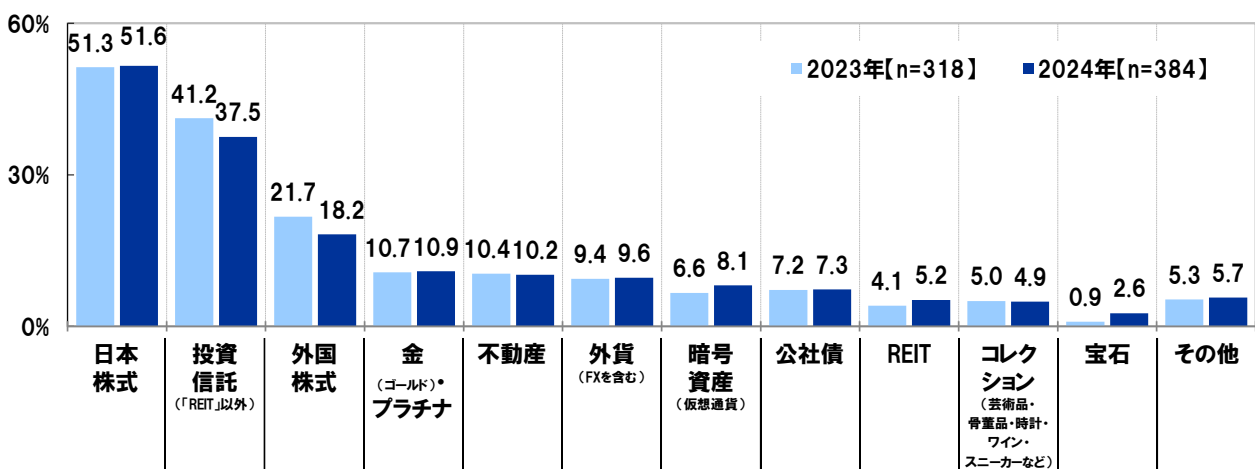
[図40]



夫婦で一緒に考えて投資をしている人(384名)に、夫婦で一緒に考えて投資をしている資産を聞いたところ、「日本株式」(51.6%)が最も高くなり、「投資信託(「REIT」以外)」(37.5%)、「外国株式」(18.2%)、「金(ゴールド)・プラチナ」(10.9%)、「不動産」(10.2%)が続きました。【図41】

[図41]

◆夫婦で一緒に考えて投資をしている資産 [複数回答形式] 対象:夫婦で一緒に考えて投資をしている人



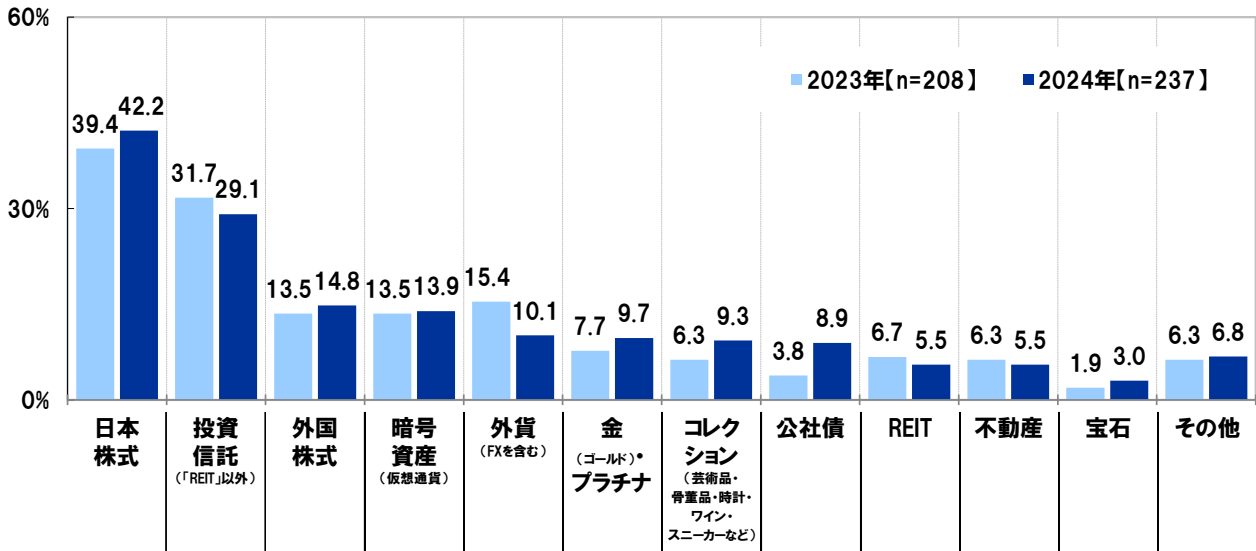


配偶者に内緒で投資をしている人(237名)に、配偶者に内緒で投資をしている資産を聞いたところ、「日本株式」(42.2%)が最も高くなり、「投資信託(「REIT」以外)」(29.1%)、「外国株式」(14.8%)、「暗号資産(仮想通貨)」(13.9%)、「外貨(FXを含む)」(10.1%)が続きました。

昨年の調査結果と比較すると、「外貨(FXを含む)」は5.3ポイント下降(2023年15.4%→2024年10.1%)しました。[図42]

[図42]

◆配偶者に内緒で投資をしている資産 [複数回答形式] 対象:配偶者に内緒で投資をしている人



▼ 夫婦関係と夫婦円満投資

◆「夫婦の役割分担を見直している」49%、20代では59%

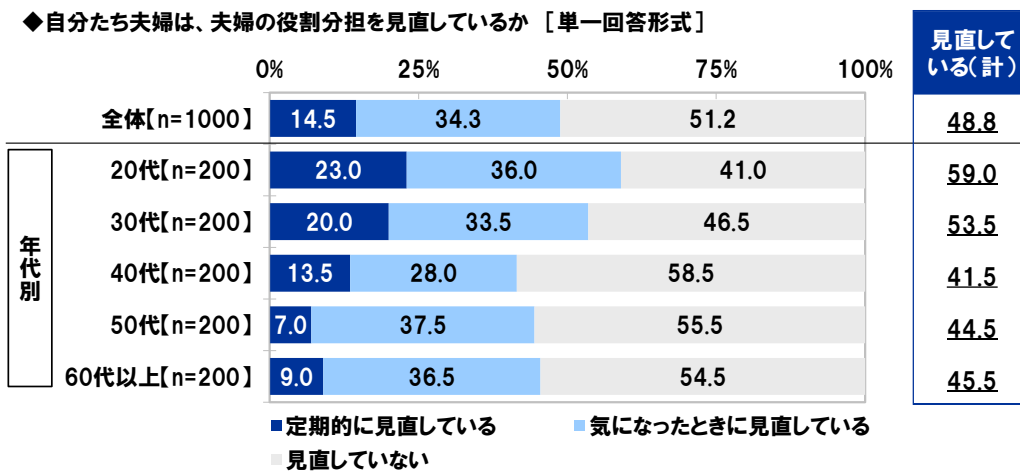
◆夫婦円満度の自己採点 平均は67点、夫婦の役割分担を見直している人では71点

夫婦関係について質問しました。

全回答者(1,000名)に、自分たち夫婦は、夫婦の役割分担を見直しているか聞いたところ、「定期的に見直している」は14.5%、「気になったときに見直している」は34.3%で、合計した『見直している(計)』は48.8%、「見直していない」は51.2%となりました。

年代別にみると、夫婦の役割分担を見直している人の割合は、20代(59.0%)と30代(53.5%)では半数以上でした。若い夫婦では、家事・育児などの分担について改善できているケースが多いようです。【図43】

[図43]

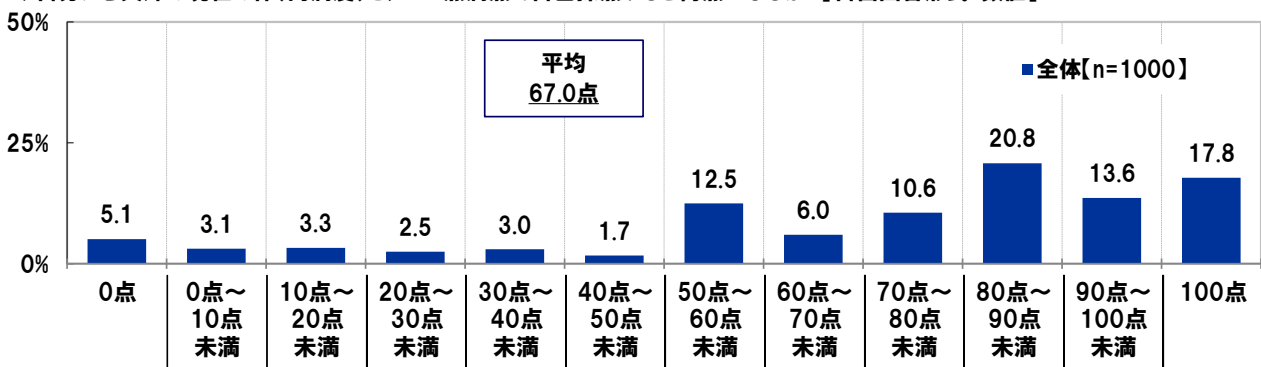


次に、自分たち夫婦の現在の仲(円満度)を、100点満点で自己採点すると何点になるか聞いたところ、「50点～60点未満」(12.5%)や「80点～90点未満」(20.8%)、「90点～100点未満」(13.6%)、「100点」(17.8%)などに回答が分かれ、平均は67.0点となりました。

夫婦の役割分担の見直し状況別にみると、夫婦の現在の仲の自己採点の平均は、役割分担を見直している人では71.2点と、見直していない人(63.0点)と比べて8.2点高くなりました。【図44】【図45】

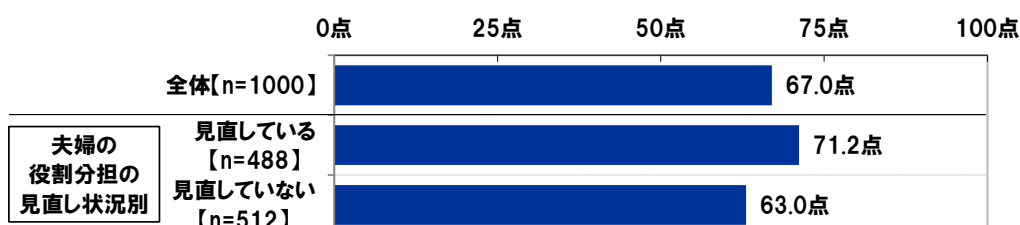
[図44]

◆自分たち夫婦の現在の仲(円満度)を、100点満点で自己採点すると何点になるか [自由回答形式:数値]



[図45]

◆自分たち夫婦の現在の仲の自己採点(平均点)



◆夫婦円満であるために行っていることTOP3「多少のことは我慢する」「話を聞く」「家事をする」、
20代男性では「記念日を祝う」、50代男性では「話を聞く」、30代女性では「感謝の気持ちを言葉で伝える」、
60代以上女性では「互いの健康を気遣う」が1位に

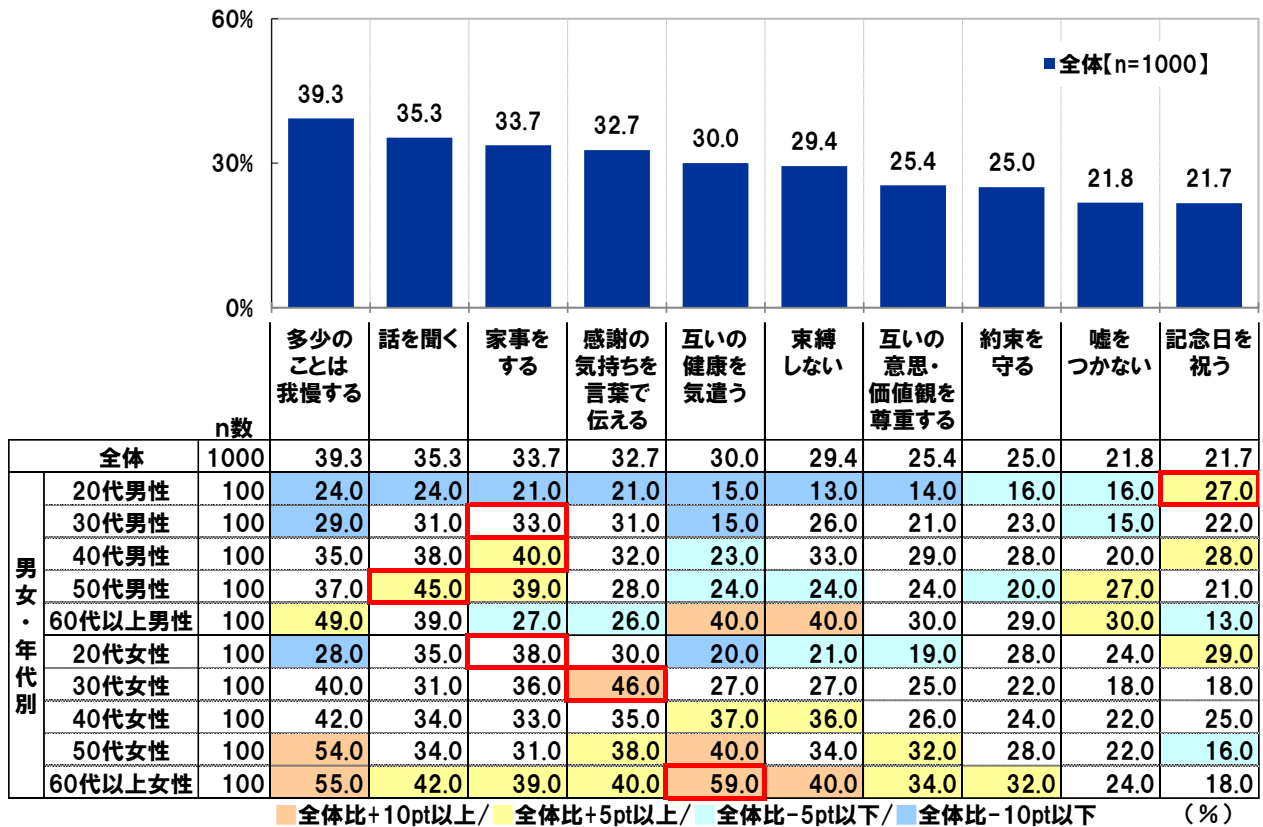
良好な夫婦関係を保つために、どのような行動を心がけている人が多いのでしょうか。

全回答者(1,000名)に、夫婦円満であるために行っていることを聞いたところ、「多少のことは我慢する」(39.3%)が最も高くなりました。愚痴や文句を抑えて相手の気持ちを尊重することが、夫婦円満の秘訣だと考える人が多いようです。次いで高くなったのは、「話を聞く」(35.3%)、「家事をする」(33.7%)、「感謝の気持ちを言葉で伝える」(32.7%)、「互いの健康を気遣う」(30.0%)でした。

男女・年代別にみると、20代男性では「記念日を祝う」(27.0%)、30代男性、40代男性、20代女性では「家事をする」(順に33.0%、40.0%、38.0%)、50代男性では「話を聞く」(45.0%)、30代女性では「感謝の気持ちを言葉で伝える」(46.0%)、60代以上女性では「互いの健康を気遣う」(59.0%)が1位となりました。【図46】

[図46]

◆夫婦円満であるために行っていること【複数回答形式】※上位10位までを抜粋



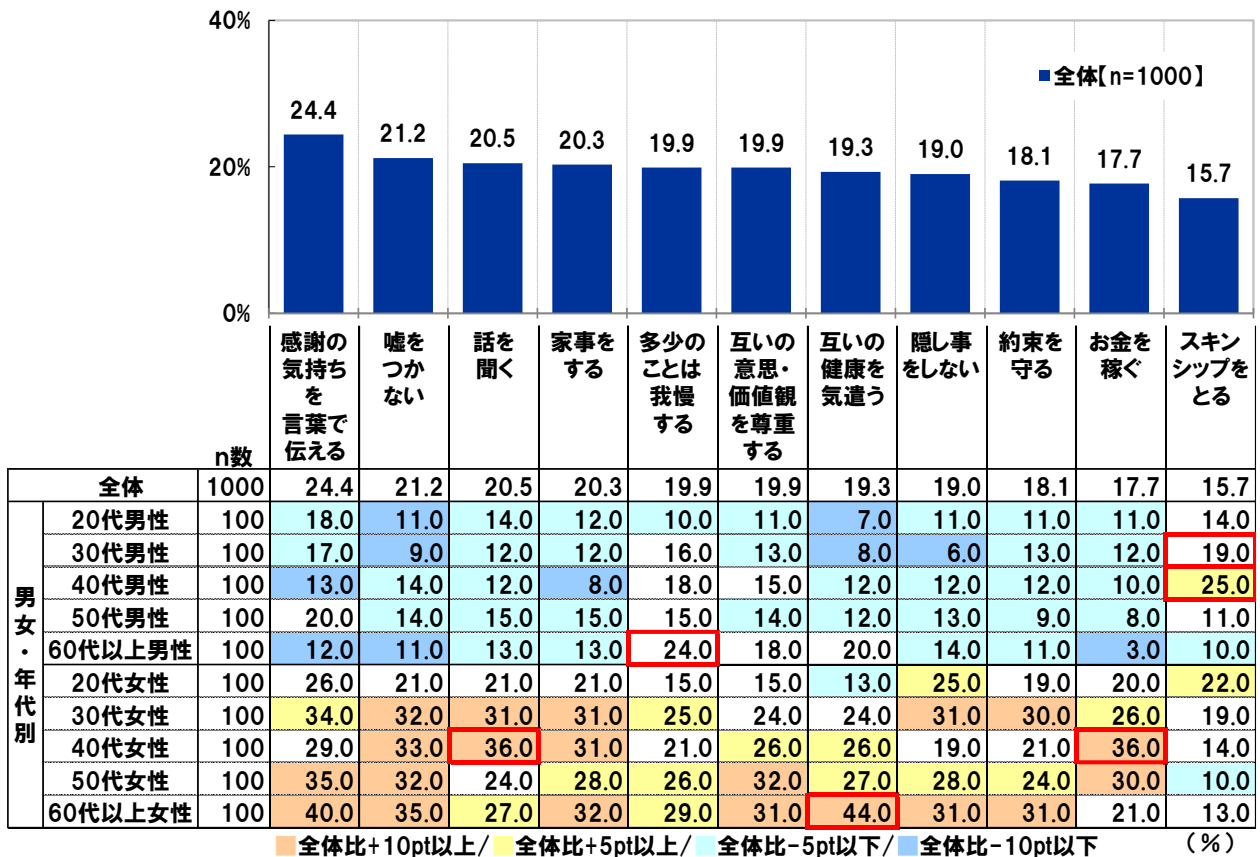
◆夫婦円満であるために配偶者に行ってほしいこと 1位は「感謝の気持ちを言葉で伝える」、60代以上男性では「多少のことは我慢する」、40代女性では「話を聞く」と「お金を稼ぐ」が1位に

次に、全回答者(1,000名)に、夫婦円満であるために配偶者に行ってほしいことを聞いたところ、「感謝の気持ちを言葉で伝える」(24.4%)が最も高くなりました。配偶者から“ありがとう”の言葉を聞きたいと思う人が多いようです。次いで高くなったのは、「嘘をつかない」(21.2%)、「話を聞く」(20.5%)、「家事をする」(20.3%)、「多少のことは我慢する」「互いの意思・価値観を尊重する」(いずれも19.9%)でした。

男女・年代別にみると、30代男性と40代男性では「スキンシップをとる」(順に19.0%、25.0%)、60代以上男性では「多少のことは我慢する」(24.0%)、40代女性では「話を聞く」と「お金を稼ぐ」(いずれも36.0%)、60代以上女性では「互いの健康を気遣う」(44.0%)が1位でした。[図47]

[図47]

◆夫婦円満であるために配偶者に行ってほしいこと [複数回答形式] ※上位11位までを抜粋





- ◆夫婦仲をお手本にしたい芸能人夫婦 1位「庄司智春さん・藤本美貴さん」2位「杉浦太陽さん・辻希美さん」
 ◆夫婦仲をお手本にしたいアニメキャラ夫婦 1位「フグ田マスオ・フグ田サザエ」2位「野原ひろし・野原みさえ」

最後に、全回答者(1,000名)に、“夫婦円満”をテーマに、イメージに合う芸能人夫婦やアニメキャラ夫婦について質問しました。

夫婦仲をお手本にしたい芸能人夫婦を聞いたところ、1位「庄司智春さん・藤本美貴さん」(57名)、2位「杉浦太陽さん・辻希美さん」(46名)、3位「ヒロミさん・松本伊代さん」(45名)、4位「反町隆史さん・松嶋菜々子さん」(26名)、5位「佐々木健介さん・北斗晶さん」(20名)となりました。藤本美貴さんのトークから垣間見られる夫婦仲の睦まじさや、庄司智春さんの愛妻家ぶりが印象に残っている人が多いのではないのでしょうか。[図48]

[図48]

◆夫婦仲をお手本にしたい芸能人夫婦
 [自由回答形式] ※上位10位までを抜粋

全体[n=1000]

順位	回答	名
1位	庄司智春・藤本美貴	57
2位	杉浦太陽・辻希美	46
3位	ヒロミ・松本伊代	45
4位	反町隆史・松嶋菜々子	26
5位	佐々木健介・北斗晶	20
6位	唐沢寿明・山口智子	14
7位	DAIGO・北川景子	9
8位	木村拓哉・工藤静香	7
9位	中尾明慶・仲里依紗	5
10位	江口洋介・森高千里	4
	太田博久・近藤千尋	4
	宮川大助・花子	4

夫婦仲をお手本にしたいアニメキャラ夫婦を聞いたところ、「フグ田マスオ・フグ田サザエ(サザエさん)」(87名)がダントツとなり、2位「野原ひろし・野原みさえ(クレヨンしんちゃん)」(28名)、3位「バカボンのパパ・バカボンのママ(天才バカボン)」(17名)、4位「磯野波平・磯野フネ(サザエさん)」(13名)、5位「ロイド・フォージャー・ヨル・フォージャー(SPY×FAMILY)」(11名)と続きました。ほほえましいエピソードの中に夫婦の絆を感じる、マスオさん・サザエさん夫婦を挙げる人が多い結果となりました。[図49]

[図49]

◆夫婦仲をお手本にしたいアニメキャラ夫婦
 [自由回答形式] ※上位5位までを抜粋

全体[n=1000]

順位	回答	名
1位	フグ田マスオ・フグ田サザエ (サザエさん)	87
2位	野原ひろし・野原みさえ (クレヨンしんちゃん)	28
3位	バカボンのパパ・バカボンのママ (天才バカボン)	17
4位	磯野波平・磯野フネ (サザエさん)	13
5位	ロイド・フォージャー・ヨル・フォージャー (SPY×FAMILY)	11



■■ 調査概要 ■■

- ◆ 調査タイトル : 夫婦のマネー事情と夫婦円満投資に関する調査2024
- ◆ 調査対象 : ネットエイジアリサーチのインターネットモニター会員を母集団とする
20歳以上の既婚(配偶者がいる)男女
- ◆ 調査期間 : 2024年10月9日～10月10日
- ◆ 調査方法 : インターネット調査
- ◆ 調査地域 : 全国
- ◆ 有効回答数 : 1,000サンプル

	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男性	100	100	100	100	100	500
女性	100	100	100	100	100	500

- ◆ 実施機関 : ネットエイジア株式会社

■■ 報道関係の皆様へ ■■

本ニュースレターの内容の転載にあたりましては、
「スパークス・アセット・マネジメント調べ」と付記のうえ
ご使用いただきますようお願い申し上げます。

■■ 本調査に関するお問合せ窓口 ■■

- 会社名 : スパークス・アセット・マネジメント株式会社
- 所在地 : 東京都港区港南 1-2-70 品川シーズンテラス 6 階
- 会社 HP : <https://www.sparx.co.jp/>
- 担当 : 広報室
- メールアドレス : pr_media@sparxgroup.com
- TEL : 03-6711-9200(代表)
- FAX : 03-6711-9201(代表)